

文化的目標の分化的機能

——学歴アノミーの研究——

米 川 茂 信

1 研究の目的

筆者は、官庁統計や既存の調査結果に依拠した筆者自身の先行研究において、これまでも、アノミー論の観点から、少年の退行行動に種々のアプローチを試みてきた。そして、文化的目標——社会的次元で文化的に価値づけられた特定の目標価値——の十分な内面化を前提としたマートン (Merton, R.K.) の意味での退行行動にも該当せず、またクロワードとオーリン (Cloward, R.A. & Ohlin, L.E.) のいう「二重の失敗」の仮説にみられる革新的適応からのドロップアウトとしての退行行動にも該当しないような、第3のタイプの退行行動、つまり、文化的目標の不十分な内面化に起因する、アノミー状況への儀礼主義 (ritualism) 的適応からのドロップアウトとしての性格をもった退行行動の存在を識別することができた。¹⁾

このような儀礼主義的適応からのドロップアウトとしての退行行動の存在は、文化的目標の不十分な内面化が、当の行為者をして、目標達成のための制度的手段——この場合は、社会的に形成されてきた因襲的な行動様式ないし行動パターン——やこれを規定する制度的規範への関心をも喪失せしめ、その結果として薬物乱用行動等の退行行動を生ぜしめているのではないか、ということを示している。とすれば、アノミー論からの逸脱行動へのアプローチも、従来のように、文化的目標の強調に内在する潜在的逆機能、つまり文化的目標の過度の内面化による制度的手段や制度的規範の軽視ないし否定——これは、マートン自身によって、「『大望』というアメリカの基本的な美德が『逸脱行動』というアメリカの基本的な悪徳を促している」²⁾として述べられている——を一面的に強調するだけでは不十分である。文化的目標の顕在的機能にも注目して、つまり文化的目標の適度の内面化が制度的手段や制度的規範の遵守をもたらし、遵法的行動を結果せしめるといった常識的理解にも立って、一方に

本稿は、平成3年度淑徳大学学術研究助成費の給付を受けて行われた研究の成果の一部を発表したものである。

おける文化的目標の社会紐帶的機能と、他方における文化的目標の不十分な内面化にかけられるアノミー状況の圧力とに注目することが必要となるのである。

他方、中・高生世代における文化的目標の主要価値実体として、一般的な地位的成功および金銭的成功のほかに、高学歴の獲得つまり大学進学がとくに識別されることも、すでに筆者自身の先行研究から明らかである。さらに、そこでは、①文化的目標の内面化の状況がそれぞれの価値実体によって異なっている、②現実社会での地位的、金銭的成功目標の達成のしかたについて、中・高生世代の多くは、不当ないし不法な手段による達成が広く行われていると認知している、③このような不当ないし不法な手段による達成が広く行われているという認知は、金銭的成功目標に関していっそう多くみられている、などの知見が得られている。³⁾

これらの知見をも加えてみると、文化的目標の内面化もしくはその欠如と逸脱行動との関連は、けっして一律に把握されるものではなく、むしろ、文化的目標の価値実体によって異なって理解されなければならないことを示している。本研究は、文化的目標に内在するような分化的機能——どのような文化的目標において、その内面化が逸脱行動を促進し、その欠如がこれを抑止しているのか、あるいは反対に、どのような文化的目標において、その内面化が逸脱行動を抑止し、その欠如がこれを促進しているのか——の検証と、文化的目標の不十分な内面化にかけられるアノミー状況の圧力の分析を、中・高生世代を対象に試論的に試みることを、その目的としている。

2 研究の方法

以上の研究目的のもとに、中・高生世代を対象として、以下の手順により統計調査を試みた。

(1) 作業仮説

- 1 文化的目標の価値実体が金銭的成功である場合、逸脱行動は、その内面化が不十分であるよりも、むしろ十分である場合に促進されやすい。
- 2 文化的目標の価値実体が地位的成功である場合、逸脱行動は、その内面化が十分と不十分の両極端である場合に促進されやすい。
- 3 文化的目標の価値実体が大学進学である場合、逸脱行動は、その内面化が不十分な場合に促進されやすい。逆にいえば、その内面化が十分な場合、逸脱行動は抑止されやすい。
- 4 文化的目標の逸脱抑止機能は、目標が将来のものである（地位的成功）場合よりも、現在のもの（大学進学）場合に、より強く働く。
- 5 文化的目標の内面化は、その価値実体に応じて、現在および将来の自己についてのイメ

ーと相関している。概して、文化的目標の不十分な内面化は、逸脱親和的な自己イメージと相関している。

- 6 現在および将来の自己についてのイメージと逸脱行動の経験とは相関関係にある。つまり、逸脱親和的な自己観念が識別される。
- 7 学校生活への適合ないし適応と逸脱行動の経験とは相関しており、学校生活への適合ないし適応が不十分な場合、逸脱行動が促進される。
- 8 文化的目標の内面化は、その価値実体に応じて、学校生活への適合ないし適応との関連性を有している。概して、文化的目標の十分な内面化は、学校生活への十分な適合ないし適応と結合するが、地位的成功や金銭的成功を価値実体とするときは、文化的目標の十分な内面化は、むしろ、学校生活への不適合ないし不適応と結合することもある。

(2) 調査項目

前記の作業仮説を実証するために、以下の調査項目を設定した。

- 1 文化的目標の内面化の状況
 - ア 一般社会で価値づけられている文化的目標（地位的成功目標と金銭的成功目標）の内面化の状況
 - イ 中・高生社会で価値づけられている文化的目標（大学進学目標）の内面化の状況
 - ウ 学校生活の過ごし方
 - エ 休日の過ごし方
- 2 逸脱行動の経験の有無
 - ア 警察による検挙・補導経験の有無と非行前歴の有無
 - イ 各種逸脱行動の経験の有無
- 3 フォーマルな学校生活への適合的行動様式の遵守の状況
 - ア 適応困難な勉学状況への対応
 - イ ふだんの勉学の状況
 - ウ 授業の主観的理解度と試験の結果
- 4 現在および将来の自己についてのイメージ：逸脱行動に親和的な自己観念の有無
- 5 所属学校の大学進学に関する状況

(3) 調査対象とサンプルの抽出

調査対象は、首都圏の公立・私立の中学・高校に在学する一般の中学生と高校生の男女および関東甲信越静を行為地とした非行少年男女である。非行少年の対象地域を一般中・高生のそれよりも広げたのは、限られた調査期間内に一定数のサンプルを確保する必要からである。

一般中・高生のサンプルは、地域性や公立・私立の別、大学への進学状況等を勘案し、ま

た、調査協力を得られる可能性なども見通して、それぞれ数校ずつの調査実施校を選定し、その学校の生徒から50～200名程度で適当数を抽出することにした。実際には、中学生については、公立の共学校2校、私立の男子校1校、同女子校1校を選定し、それぞれから2年次生の学級を3～5クラスほど任意に抽出し、そのクラスの出席生徒全員から男子324名、女子312名、計636名のサンプルを得た。また、高校生については、公立の共学校4校、私立の男子校1校、同女子校1校を選定し、それぞれから2・3年次生の学級を1～5クラスほど任意に抽出し、そのクラスの出席生徒全員から男子301名、女子387名、計688名のサンプルを得た。なお、公立の共学校1校に職業科の生徒が一部含まれているほかは、すべて普通科の生徒である。⁴⁾

非行少年のサンプルは、調査期間中に、刑法犯（交通関係業務上過失致死傷を除く）、特別法犯（道路交通法および自動車の保管場所の確保等に関する法律に規定する罪を除く）および虞犯により、東京都、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県の11都県の警察署で検挙・補導された非行少年男女で、サンプル数は828名である。その内訳は、中学生294名（男子240、女子53、性別不明1）、高校生276名（男子190、女子86）、有職少年116名（男子101、女子15）、無職少年105名（男子60、女子45）、その他19名（男子15、女子4）、不明18名となっている。^{*}

(4) 調査方法

調査方法は、一般中・高生調査と非行少年調査の両者とも自記式による質問紙法を用いたが、前者は学級単位で集会的に、後者は個人ごとに個別的に実施した。

(5) 調査期間

調査期間は、一般中・高生調査については、1992年2月下旬から同3月上旬までと設定したが、高校生調査の一部は、新3年生（公立普通科共学）と新2年生（公立職業科共学）を対象に同年4月中旬から下旬にかけて実施した。非行少年調査の期間は、1992年2月15日から同年3月5日までの間と設定し、そのとおりに実施した。

3 調査結果

(1) 文化的目標の内面化の状況と逸脱行動の経験との関連

1) 文化的目標の内面化に関する一般少年と非行少年の比較

一般少年（中・高生のみ）と非行少年の別に文化的目標の内面化の状況を比較してみると、表1のとおりである。なお、文化的目標としては、少年たちの将来にかかわるものとして「人

※ 非行少年の調査に関しては、科学警察研究所防犯少年部長の星野周弘氏にご協力とご尽力を賜った。記して謝意を表したい。

表1 文化的目標の内面化者の割合 (%)

文化的目標	一般少年								
	計	男	女	中学生			高校生		
				計	男	女	計	男	女
	N = $\begin{pmatrix} 1323 \\ 1321 \\ 1281 \end{pmatrix}$	N = $\begin{pmatrix} 624 \\ 624 \\ 608 \end{pmatrix}$	N = $\begin{pmatrix} 699 \\ 697 \\ 673 \end{pmatrix}$	N = $\begin{pmatrix} 636 \\ 636 \\ 619 \end{pmatrix}$	N = $\begin{pmatrix} 324 \\ 324 \\ 316 \end{pmatrix}$	N = $\begin{pmatrix} 312 \\ 312 \\ 303 \end{pmatrix}$	N = $\begin{pmatrix} 687 \\ 685 \\ 662 \end{pmatrix}$	N = $\begin{pmatrix} 300 \\ 300 \\ 292 \end{pmatrix}$	N = $\begin{pmatrix} 387 \\ 385 \\ 370 \end{pmatrix}$
人の上に立つ ^{a)}	24.0	35.9	13.4	24.2	34.3	13.8	23.9	37.7	13.2
金持ちになる ^{a)}	46.0	50.0	42.5	47.5	53.1	41.7	44.7	46.7	43.1
大学進学 ^{b)}	65.6	83.9	49.0	63.8	81.3	45.5	67.2	86.6	51.9

文化的目標	非行少年										
	計	男	女	中学生			高校生			有職少年	無職少年
				計	男	女	計	男	女		
	N = $\begin{pmatrix} 823 \\ 820 \\ 553 \end{pmatrix}$	N = $\begin{pmatrix} 615 \\ 613 \\ 419 \end{pmatrix}$	N = $\begin{pmatrix} 208 \\ 207 \\ 134 \end{pmatrix}$	N = $\begin{pmatrix} 294 \\ 294 \\ 285 \end{pmatrix}$	N = $\begin{pmatrix} 240 \\ 240 \\ 233 \end{pmatrix}$	N = $\begin{pmatrix} 53 \\ 53 \\ 51 \end{pmatrix}$	N = $\begin{pmatrix} 276 \\ 273 \\ 265 \end{pmatrix}$	N = $\begin{pmatrix} 190 \\ 188 \\ 182 \end{pmatrix}$	N = $\begin{pmatrix} 86 \\ 85 \\ 83 \end{pmatrix}$	N = $\begin{pmatrix} 116 \\ 116 \\ - \end{pmatrix}$	N = $\begin{pmatrix} 105 \\ 105 \\ - \end{pmatrix}$
人の上に立つ ^{a)}	21.3	24.7	11.1	19.4	21.7	9.4	18.5	21.1	12.8	30.2	20.0
金持ちになる ^{a)}	56.0	57.4	51.7	54.8	55.0	54.7	49.1	51.6	43.5	71.6	55.2
大学進学 ^{b)}	21.3	25.8	7.5	17.2	20.6	2.0	25.3	31.9	10.8	—	—

1. a) 将来の目標として、「人の上に立つ」あるいは「金持ちになる」を考えているか、という質問に対して、「1 思う」、「2 少しは思う」、「3それほどは思わない」、「4 思わない」、「5 どちらともいえない」の選択肢の中から、「1 思う」を選択した者の割合を示してある。
b) 学校卒業後の進路のうち、「大学に進学」または「大学まで卒業」を希望している者の割合を示してある。
2. Nの数値は、上から順に、「人の上に立つ」、「金持ちになる」、「大学進学」のそれぞれの有効サンプル数である。

人の上に立つ」(地位的成功)と「金持ちになる」(金銭的成功)の2つが、また中・高生の当面の目標として「大学進学」が指定されている。表1から得られる知見は、つぎのとおりである。

1. 「人の上に立つ」は、男女で著しい差があり、一般少年、非行少年を問わず、男子においてより多く内面化されている。男女別に一般少年と非行少年を比較してみると、女子ではほとんど差がみられてないが、男子においては明らかに一般少年の方に内面化者が多い傾向が指摘される(カイ二乗検定で $P < 0.000$)。これをさらに、中・高生別にみても、以上と同じ知見が得られる(中学生： $P = 0.102$ ，高校生： $P = 0.069$)。

2. 「金持ちになる」は、全体でみると、非行少年にやや多く内面化されている(カイ二乗検定で $P < 0.000$)。全体を男女別に比較してみても同じ知見が得られる(男子： $P = 0.009$ ，女子： $P = 0.019$)。しかし、中・高生別—男女別にみても、こうした傾向が認められるのは中学生の女子に限られており($P = 0.076$)，他の場合には、一般少年と非行少年の間に差は認められない。したがって、さきの全体的傾向は、有職非行少年(男101人，女15人)にお

いて内面化者の割合（男で72.3%，女で66.7%）が著しく高いという事実によっている。なお一般少年の高校生と非行少年の中学生には、性差は認められないが、一般少年の中学生と非行少年の高校生においては、男子の方に内面化者がやや多い傾向にある。

3. 「大学進学」は、一般少年により多く内面化されている。非行少年との差はきわめて大きい(カイ二乗検定で $P<0.000$)。男女別、中・高生別に、一般少年と非行少年を比較してみても同じ知見が得られる(男子： $P<0.000$ ，女子： $P<0.000$ ，中学生： $P<0.000$ ，高校生： $P<0.000$)。なお、一般少年においても、非行少年においても、女子よりも男子においてより多く内面化されている。その差は依然として大きく、とくに非行少年においていっそう顕著である($P<0.000$)。非行少年の女子の場合、学校卒業後「大学進学」を希望する者は、中学生で2%，高校生で11%にとどまっている。

2) 非行の種類および前歴の有無別の比較

表2は、非行少年を非行の種類および前歴の有無別に区分して、非行少年間で、文化的目標の内面化者の割合を比較したものである。まず、非行の種類別にみても。非行の種類や態様等が一樣でない「その他の非行」を除いて、初発型非行、粗暴犯非行、薬物非行の三者間でみると、「人の上に立つ」と「金持ちになる」は、初発型非行の少年よりも薬物非行や粗暴犯非行の少年に内面化者が多い（ただし、非行類型別の非行少年の内訳は、つぎのとおりである。初発型非行：中学生34.9%，高校生47.9%，有職少年6.3%，無職少年7.8%，その他3.1%。粗暴犯非行：中学生51.7%，高校生18.7%，有職少年19.8%，無職少年8.8%，その他1.1%。薬物非行：中学生23.0%，高校生10.5%，有職少年33.6%，無職少年31.6%，その他1.3%）。表にはないが、この両者に限って、実数の比較的多い男子についてみてみれば、いずれの内面化者も、薬物非行の少年の方にやや多い傾向がある（「人の上に立つ」：薬物非行34.7%，粗暴犯非行27.6%。「金持ちになる」：薬物非行69.3%，粗暴犯非行63.2%）。以上に対して、「大学進学」の内面化者は、初発型非行の少年に最も多く、ついで粗暴犯非行の少年の順になっており、薬物非行の少年にきわめて少ないという傾向をしめしている（非行少年の場合、女子の四年制大学への進学希望者がきわめて少ない——134名中で10名——ため、ここでは短大への進学希望者——同14名——も含めている）。男子に限ってみても同様である（初発型非行31.7%，粗暴犯非行20.6%，薬物非行7.1%）。

ついで、前歴の有無別にみると、「人の上に立つ」と「金持ちになる」の内面化者は前歴ありの少年にやや多いという傾向が認められる（ただし、前歴の有無別の非行少年の内訳は、つぎのとおりである。前歴なし：中学生38.3%，高校生43.5%，有職少年7.6%，無職少年8.3%，その他2.2%。前歴あり：中学生32.2%，高校生15.2%，有職少年27.8%，無職少年22.2%，その他2.6%）。反対に、「大学進学」のそれは前歴なしの少年に多く、前歴ありの少年との差はかなり大きいものとなっている。男子に限ってみても同様である（「人

表2 非行の種類・前歴の有無別にみた文化的目標の内面化者の割合 (%)

文 化 的 目 標	非 行 の 類 型					前 歴 の 有 無		
	初発型非行 N = $\begin{Bmatrix} 450 \\ 447 \\ 360 \end{Bmatrix}$	粗暴犯非行 N = $\begin{Bmatrix} 95 \\ 95 \\ 64 \end{Bmatrix}$	薬物非行 N = $\begin{Bmatrix} 158 \\ 158 \\ 47 \end{Bmatrix}$	その他の 非 行 N = $\begin{Bmatrix} 120 \\ 120 \\ 83 \end{Bmatrix}$	χ^2 検 定	な し N = $\begin{Bmatrix} 548 \\ 546 \\ 429 \end{Bmatrix}$	あ り N = $\begin{Bmatrix} 277 \\ 276 \\ 126 \end{Bmatrix}$	χ^2 検 定
人の上に立つ ^{a)}	18.4	25.3	27.9	20.0	*	17.3	28.9	***
金持ちになる ^{a)}	52.1	64.2	65.2	50.8	***	52.4	63.0	***
大 学 進 学 ^{b)}	28.9	20.3	6.4	21.7	***	30.1	7.1	***

1. a) については表1と同じ。b) には「短大に進学」または「短大まで卒業」を含む。
2. 表頭のNについては表1と同じ。
3. 各非行類型には、以下の非行が分類されている。
初発型非行 : 万引き, オートバイ盗, 自転車盗, 占有離脱物横領
薬物非行 : シンナー等乱用, 覚せい剤乱用, 覚せい剤所持
その他の非行 : 上記以外の非行で、特別法犯とぐ犯を含む。
4. χ^2 検定 *** : $P < 0.01$ ** : $P < 0.05$ * : $P < 0.1$

表3 休日の過ごし方：休日に勉強する者の割合

休 日 の 過 ご し 方	一 般 少 年								
	計	男	女	中 学 生			高 校 生		
				計	男	女	計	男	女
現在の休日の過ごし方									
サンプル数(人)	1,320	623	697	636	324	312	684	299	385
家で勉強 (%)	40.1	48.8	32.3	33.6	40.1	26.9	46.1	58.2	36.6
塾や予備校に行く (%)	10.8	12.4	9.3	9.4	6.8	12.2	12.0	18.4	7.0
土曜休みの過ごし方									
サンプル数(人)	1,016	623	393	500	324	176	516	299	217
家で勉強 (%)	30.3	33.5	25.2	24.4	27.2	19.3	36.0	40.5	30.0
塾や予備校に行く (%)	7.2	8.8	4.6	5.4	5.6	5.1	8.9	12.4	4.1
休 日 の 過 ご し 方	非 行 少 年								
	計	男	女	中 学 生			高 校 生		
				計	男	女	計	男	女
現在の休日の過ごし方									
サンプル数(人)	823	615	208	293	240	53	276	190	86
家で勉強 (%)	7.4	8.3	4.8	8.2	9.2	3.8	11.2	12.6	8.1
塾や予備校に行く (%)	3.6	4.2	1.9	5.5	6.7	0.0	3.6	3.7	3.5
土曜休みの過ごし方									
サンプル数(人)	569	430	139	293	240	53	276	190	86
家で勉強 (%)	6.5	6.3	7.2	7.2	6.7	9.4	5.8	5.8	5.8
塾や予備校に行く (%)	3.2	3.7	1.4	3.8	4.2	1.9	2.5	3.2	1.2

1. 「現在の休日の過ごし方」は、実際によくしている休日の過ごし方を聞いたもので、回答は、全部で20項目のうちから該当するものをすべて選択してもらうという方式をとった。
2. 「土曜日休みの過ごし方」は、土曜日に学校が休みになったときにしてみたい過ごし方を聞いたもので、回答は、全部で22項目のうちから3つまでを選択してもらうという方式をとった。対象は、中・高生だが、調査時点ですでに完全週5日制を実施していた私立の女子中・高各1校のサンプルは除いてある。

上に立つ」：前歴なし20.0%，あり32.6%。「金持ちになる」：前歴なし54.2%，あり62.9%。
「大学進学」：前歴なし34.3%，あり8.0%）。

3) 勉学への意欲に関する一般少年と非行少年の比較

ア 休日に勉強する者の割合

表3から、まず、現在実際に行っている休日の過ごし方として、「家で勉強」や「塾や予備校に行く」をあげる者をみると、いずれも一般少年により多く、かつ、非行少年との差もかなり大きい(カイ二乗検定で、順に、 $P<0.000$ ， $P<0.000$ で有意差あり)。男女別、中・高生別にみても、ほとんど同様のことがいえる。つぎに、土曜日に新たに学校が休みになったときの過ごし方として、「家で勉強」や「塾や予備校に行く」をあげる者の割合についてであるが、これについても、現在の休日の過ごし方についてとまったく同様の知見が得られる(全体についてのカイ二乗検定で、順に、 $P<0.000$ ， $P=0.001$ で有意差あり)。

イ 怠学行動の経験者の割合

表4から、怠学行動の経験者の割合を比較してみる。「やる気がなくて、宿題をやらない」

表4 怠学行動の経験者の割合 (%)

怠学行動	一般少年								
	計	男	女	中学生			高校生		
				計	男	女	計	男	女
	$N = \begin{Bmatrix} 1321 \\ 1321 \\ 1321 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 623 \\ 624 \\ 623 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 698 \\ 697 \\ 698 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 634 \\ 634 \\ 634 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 322 \\ 323 \\ 322 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 312 \\ 311 \\ 312 \end{Bmatrix}$	$N = 687$	$N = 301$	$N = 386$
やる気がなくて、宿題をやらない	74.3	72.2	76.2	71.7	65.5	78.2	76.7	79.4	74.6
授業をさぼる	26.3	28.5	24.4	15.6	13.3	18.0	36.2	44.9	29.5
学校を無断で欠席	14.4	15.2	13.6	6.8	6.5	7.1	21.4	24.6	18.9

怠学行動	非行少年								
	計	男	女	中学生			高校生		
				計	男	女	計	男	女
	$N = \begin{Bmatrix} 550 \\ 550 \\ 549 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 414 \\ 414 \\ 413 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 136 \\ 136 \\ 136 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 288 \\ 289 \\ 287 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 236 \\ 237 \\ 235 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 52 \\ 52 \\ 52 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 262 \\ 261 \\ 262 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 178 \\ 177 \\ 178 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 84 \\ 84 \\ 84 \end{Bmatrix}$
やる気がなくて、宿題をやらない	81.8	82.1	80.9	85.1	83.9	90.4	78.2	79.8	75.0
授業をさぼる	55.8	54.6	59.6	56.8	53.1	73.1	54.8	56.5	51.2
学校を無断で欠席	48.1	48.4	47.1	52.3	48.9	67.3	43.5	47.8	34.5

- 1. 上表の数値(%)は、中学生においては中学生になってから、高校生においては高校生になってから、当該怠学行動を経験した者の割合。
- 2. 表頭のNの数値は、上から順に、「やる気がなくて、宿題をやらない」、「授業をさぼる」、「学校を無断で欠席」についての有効サンプル数。

の経験者は、非行少年にやや多い(カイ二乗検定で $P < 0.000$ で有意差あり)。他方、「授業をさぼる」と「学校を無断で欠席」は、男女とも、また中・高生とも非行少年の方に明らかに多い傾向を示している(いずれのケースも $P < 0.000$ で有意差あり)。

4) 非行少年間での比較

上記の勉学への意欲や制度化された学習への適応の状況を、非行の種類と前歴の有無別に非行少年間で比較してみたのが表5と表6である。表5によると、現在の休日の過ごし方と土曜休みの過ごし方のいずれにおいても、「家で勉強」や「塾や予備校に行く」といった過ごし方は、粗暴犯非行や薬物非行の少年とか前歴ありの少年により少なくなっている。とくに薬物非行の少年において著しく少ないことがわかる。

表5 非行の種類・前歴の有無別にみた休日に勉強する者の割合

休日の過ごし方	非 行 の 類 型					前 歴 の 有 無		
	初発型非行	粗暴犯非行	薬物非行	その他の非行	χ^2 検定	な し	あ り	χ^2 検定
現在の休日の過ごし方								
サンプル数(人)	450	95	158	120		548	277	
家で勉強 (%)	10.7	6.3	2.5	3.3	***	9.5	3.6	***
塾や予備校に行く(%)	4.4	3.2	1.3	4.2		4.6	1.8	**
土曜休みの過ごし方								
サンプル数(人)	371	65	52	86		445	130	
家で勉強 (%)	8.1	4.6	0.0	4.7		7.2	3.9	
塾や予備校に行く(%)	3.8	3.0	0.0	2.4		3.8	0.8	*

1. 表2および表3の脚注を参照。

2. χ^2 検定 *** : $P < 0.01$ ** : $P < 0.05$ * : $P < 0.1$

表6 非行の種類・前歴の有無別にみた怠学行動の経験者の割合

(%)

怠 学 行 動	非 行 の 類 型					前 歴 の 有 無		
	初発型非行	粗暴犯非行	薬物非行	その他の非行	χ^2 検定	な し	あ り	χ^2 検定
	$N = \begin{Bmatrix} 357 \\ 356 \\ 357 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 64 \\ 64 \\ 63 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 49 \\ 50 \\ 49 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 81 \\ 81 \\ 81 \end{Bmatrix}$		$N = \begin{Bmatrix} 429 \\ 428 \\ 427 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 122 \\ 123 \\ 123 \end{Bmatrix}$	
やる気がなくて、宿題をやらない	79.8	92.2	95.9	74.1	***	80.2	87.7	*
授業をさぼる	48.9	70.3	88.0	55.6	***	49.3	78.9	***
学校を無断で欠席	37.5	66.7	89.8	55.6	***	40.7	74.0	***

1. 表2および表4の脚注を参照。

2. χ^2 検定 *** : $P < 0.01$ ** : $P < 0.05$ * : $P < 0.1$

また、表6によれば、非行の類型別では、いずれの怠学行動の経験者も薬物非行の少年に最も多く、ついで粗暴犯非行の少年に多くっており、初発型非行の少年において最も少ないことがわかる(その他の非行を除く)。また、前歴の有無別では、いずれの怠学行動の経験者も前歴ありの少年により多く、前歴なしの少年により少ないという傾向がみられている。

5) 逸脱行動の経験の有無別の比較

一般少年の中学生と高校生を対象に、前者については中学生になってからの、後者については高校生になってからの逸脱行動の経験の有無別に文化的目標の内面化者の割合をみると、表7のとおりである。なお、逸脱行動の経験の有無に関しては、つぎの点に注意されたい。①怠学経験：「やる気がなくて、宿題をやらない」、「授業をさぼる」、「学校を無断で欠席」のうち、2つ以上を経験した場合が経験あり、それ以外が経験なし。②不良経験：「親に無断で外泊」、「家出」、「友達をなぐる」、「ディスコに行く」、「パチンコ屋にいく」、「タバコを吸う」、「友達と酒を飲む」のうち、2つ以上を経験した場合が経験あり、それ以外が経験なし。③犯罪経験：「自転車の乗り逃げ」、「オートバイの乗り逃げ」、「万引き」、「シンナーを吸う」のうち、1つ以上を経験した場合が経験あり、それ以外が経験なし。なお、いずれも、中学生の場合は中学生になってからの、また高校生の場合は高校生になってからの経験が問題にされている。表7から得られる知見は、以下のとおりである。

ア 怠学経験の有無別

中学生の場合：男子においては「大学進学」の内面化者が経験なしにより多い。「金持ちになる」には差がない。女子においては「大学進学」の内面化者が経験なしの方にやや多い。

高校生の場合：男子においては「人の上に立つ」の内面化者が、女子においては「大学進学」のそれが経験なしの方に多くみられているほかは、ほとんど差がない。

イ 不良経験の有無別

中学生の場合：男子においては、「人の上に立つ」と「金持ちになる」の内面化者が経験ありに、「大学進学」のそれが経験なしにより多い。女子においては、「金持ちになる」の内面化者が経験ありにより多い。

高校生の場合：男子においては「大学進学」の内面化者が経験なしにより多いほかは、ほとんど差がない。女子においては、「人の上に立つ」と「金持ちになる」の内面化者が経験ありの方に多い。「大学進学」については、ほとんど差がない。

ウ 犯罪経験の有無別：

中学生の場合：男子においては、「人の上に立つ」と「金持ちになる」の内面化者が経験ありの方に、「大学進学」のそれが経験なしの方に多い。女子においては、「経験あり」の実数が少ないため、いずれについても有意差が認められない。

表7 一般少年の逸脱行動の経験の有無別にみた文化的目標の内面化者の割合 (%)

中 学 生										
文 化 的 目 標		怠 学 経 験			不 良 経 験			犯 罪 経 験		
		あり	なし	χ^2 検定	あり	なし	χ^2 検定	あり	なし	χ^2 検定
計	サンプル数 人	$N = \begin{Bmatrix} 109 \\ 109 \\ 106 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 527 \\ 527 \\ 513 \end{Bmatrix}$		$N = \begin{Bmatrix} 155 \\ 155 \\ 151 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 481 \\ 481 \\ 468 \end{Bmatrix}$		$N = \begin{Bmatrix} 75 \\ 75 \\ 74 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 561 \\ 561 \\ 545 \end{Bmatrix}$	
	人の上に立つ	28.4	23.3		38.1	19.8	***	45.3	21.4	***
	金持ちになる	55.1	45.9	*	58.1	44.1	***	60.0	45.8	**
	大 学 進 学	50.0	66.7	***	62.3	64.3		62.2	64.0	
男	サンプル数 人	$N = \begin{Bmatrix} 48 \\ 48 \\ 45 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 276 \\ 276 \\ 271 \end{Bmatrix}$		$N = \begin{Bmatrix} 111 \\ 111 \\ 108 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 213 \\ 213 \\ 208 \end{Bmatrix}$		$N = \begin{Bmatrix} 59 \\ 59 \\ 58 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 265 \\ 265 \\ 258 \end{Bmatrix}$	
	人の上に立つ	43.8	32.6		45.1	28.6	***	52.5	30.2	***
	金持ちになる	50.0	53.6		59.5	49.8	*	64.4	50.6	*
	大 学 進 学	62.2	84.5	***	73.2	85.6	***	70.7	83.7	**
女	サンプル数 人	$N = \begin{Bmatrix} 61 \\ 61 \\ 61 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 251 \\ 251 \\ 242 \end{Bmatrix}$		$N = \begin{Bmatrix} 44 \\ 44 \\ 43 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 268 \\ 268 \\ 260 \end{Bmatrix}$		$N = \begin{Bmatrix} 16 \\ 16 \\ 16 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 296 \\ 296 \\ 287 \end{Bmatrix}$	
	人の上に立つ	16.4	10.6		20.5	12.7		18.8	13.5	
	金持ちになる	59.0	37.5	***	54.6	39.6	*	43.8	41.6	
	大 学 進 学	41.0	46.7		34.9	47.3		31.3	46.3	
高 校 生										
文 化 的 目 標		怠 学 経 験			不 良 経 験			犯 罪 経 験		
		あり	なし	χ^2 検定	あり	なし	χ^2 検定	あり	なし	χ^2 検定
計	サンプル数 人	$N = \begin{Bmatrix} 254 \\ 253 \\ 242 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 433 \\ 432 \\ 420 \end{Bmatrix}$		$N = \begin{Bmatrix} 245 \\ 244 \\ 233 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 442 \\ 441 \\ 429 \end{Bmatrix}$		$N = \begin{Bmatrix} 119 \\ 119 \\ 116 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 568 \\ 566 \\ 546 \end{Bmatrix}$	
	人の上に立つ	22.1	24.9		28.9	21.0	**	29.4	22.7	
	金持ちになる	48.2	42.6		49.2	42.2	*	51.3	43.3	
	大 学 進 学	65.7	68.1		70.8	65.3		65.5	67.6	
男	サンプル数 人	$N = \begin{Bmatrix} 135 \\ 135 \\ 132 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 165 \\ 165 \\ 160 \end{Bmatrix}$		$N = \begin{Bmatrix} 146 \\ 146 \\ 142 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 154 \\ 154 \\ 150 \end{Bmatrix}$		$N = \begin{Bmatrix} 79 \\ 79 \\ 78 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 221 \\ 221 \\ 214 \end{Bmatrix}$	
	人の上に立つ	31.1	43.0	**	36.3	39.0		38.0	37.6	
	金持ちになる	49.6	44.2		47.3	46.1		51.9	44.8	
	大 学 進 学	83.3	89.4		81.0	92.0	***	78.2	89.7	***
女	サンプル数 人	$N = \begin{Bmatrix} 119 \\ 118 \\ 110 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 268 \\ 267 \\ 260 \end{Bmatrix}$		$N = \begin{Bmatrix} 99 \\ 98 \\ 91 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 288 \\ 287 \\ 279 \end{Bmatrix}$		$N = \begin{Bmatrix} 40 \\ 40 \\ 38 \end{Bmatrix}$	$N = \begin{Bmatrix} 347 \\ 345 \\ 332 \end{Bmatrix}$	
	人の上に立つ	11.8	13.8		18.2	11.5	*	12.5	13.3	
	金持ちになる	46.6	41.6		52.0	40.1	**	50.0	42.3	
	大 学 進 学	44.6	55.0	*	55.0	50.9		39.5	53.8	

1. 文化的目標とサンプル数については表1を参照。

2. 怠学経験については、中学生においては中学生になってから、高校生においては高校生になってから、「やる気がなくて、宿題をやらない」、「授業をさぼる」、「学校を無断で欠席」のうち2つ以上を経験した場合が経験あり、それ以外が経験なし。

不良経験については、同じく、「親に無断で外泊」、「家出」、「友達をなぐる」、「ディスコに行く」、「パチンコ屋に行く」、「タバコを吸う」、「友達と酒を飲む」のうち2つ以上を経験した場合が経験あり、それ以外が経験なし。

犯罪経験については、同じく、「自転車の乗り逃げ」、「オートバイの乗り逃げ」、「万引き」、「シンナーを吸う」のうち1つ以上を経験した場合が経験あり、それ以外が経験なし。

3. χ^2 検定 *** : $P < 0.01$ ** : $P < 0.05$ * : $P < 0.1$

高校生の場合：男子において「大学進学」の内面化者が経験なしの方に多い。これ以外には有意差が認められない。なお、男女とも「人の上に立つ」については、犯罪経験の有無による差はほとんどない。

(2) 自己イメージと逸脱行動の経験との関連

1) 自己イメージについての一般少年と非行少年との比較

現在および将来の自己についての本人自身のイメージを一般少年と非行少年とで比較してみたのが表8と表9である。表8から現在の自己についてのイメージをみると、友人の評価についてのイメージ——自分が友人からどうみられているかということについての認識——を除いて、すべて、肯定的イメージは一般少年に、否定的イメージは非行少年により多いことがわかる。すなわち、一般少年には、非行少年に比して、教師や親が自分を良く評価しているとみたり、自分自身で自分を良く評価している者が多く、反対に、非行少年には、一般少年に比して、教師や親が自分を悪く評価しているとみたり、自分自身で自分を悪く評価している者が多いという傾向が指摘される(カイ二乗検定で順に $P<0.000$, $P<0.000$, $P<0.000$)。この傾向は、男女別、中・高生別にみても、同様に認められる(すべてのケースで $P<0.000$ で有意差あり)。友人の評価については、高校生の女子の場合を除くと、一般少年と非行少年との間に差がみられない。高校生の女子では非行少年に肯定的イメージをもつ者が若干多くみられている ($P=0.016$)。

つぎに、表9から将来の自己についてのイメージをみると、自身の社会的必要性についてのイメージを除いて、すべて、肯定的イメージは一般少年に、否定的イメージは非行少年により多いことがわかる。すなわち、将来の幸福や自己実現の可能性、出世の見込などについて、一般少年には、非行少年に比して、肯定的なイメージをもつ者が多く、反対に、非行少年には、一般少年に比して、否定的なイメージをもつ者が多い傾向にある(順に、 $P<0.000$, $P<0.000$, $P<0.000$)。この傾向は、男女別、中・高生別にみても、同様に認められる(すべてのケースで $P<0.000$ で有意差あり)。自身の社会的必要性については、中・高生の女子の場合に一般少年に肯定的イメージをもつ者が多く、非行少年に否定的イメージをもつ者が多いという傾向が認められるが(中学生： $P=0.003$, 高校生： $P=0.014$)、これ以外には、一般少年と非行少年との間にほとんど差がみられない。

2) 非行少年間での比較

非行少年を対象に、非行の類型と前歴の有無別に現在および将来の自己についての本人自身のイメージをみたのが、表10である。まず、その他の非行を除いて非行の類型別に現在の自己についてのイメージをみると、友人の評価以外の、教師の評価、親の評価、自身の評価の3つについて、肯定的イメージは初発型非行の少年に最も多く、薬物非行の少年に最も少ないという傾向が、逆にいえば、否定的イメージは薬物非行の少年に最も多く、初発型

表8 現在の自己についての本人自身のイメージ

自己イメージ	一般少年								
	計	男	女	中学生			高校生		
				計	男	女	計	男	女
〈教師の評価〉	100% (1310)	100% (615)	100% (695)	100% (628)	100% (317)	100% (311)	100% (682)	100% (298)	100% (384)
学校の先生たちからわりあいよい生徒だとみられている	56.1	52.5	59.3	47.8	48.3	47.3	63.8	57.1	69.0
学校の先生たちからあまりよい生徒だとはみられていない	43.9	47.5	40.7	52.2	51.7	52.7	36.2	43.0	31.0
〈親の評価〉	100% (1312)	100% (617)	100% (695)	100% (628)	100% (317)	100% (311)	100% (684)	100% (300)	100% (384)
親からわりあいよい子だとみられている	57.9	55.1	60.3	50.3	50.5	50.2	64.8	60.0	68.5
親からあまりよい子だとはみられていない	42.1	44.9	39.7	49.7	49.5	49.8	35.2	40.0	31.5
〈友人の評価〉	100% (1299)	100% (612)	100% (687)	100% (622)	100% (315)	100% (307)	100% (677)	100% (297)	100% (380)
友達からわりあいよい友達だとみられている	69.7	69.0	70.5	64.8	66.4	63.2	74.3	71.7	76.3
友達からあまりよい友達だとはみられていない	30.3	31.0	29.5	35.2	33.7	36.8	25.7	28.3	23.7
〈自身の評価〉	100% (1317)	100% (619)	100% (698)	100% (630)	100% (319)	100% (311)	100% (687)	100% (300)	100% (387)
自分自身ではあまり問題のない生徒だと思う	74.7	71.9	77.2	71.8	74.3	69.1	77.4	69.3	83.7
自分自身ではわりあい問題のある生徒だと思う	25.3	28.1	22.8	28.3	25.7	30.9	22.6	30.7	16.3

自己イメージ	非行少年									有職少年	無職少年
	計	男	女	中学生			高校生				
				計	男	女	計	男	女		
〈教師の評価〉	100% (566)	100% (427)	100% (139)	100% (292)	100% (239)	100% (53)	100% (274)	100% (188)	100% (86)		
学校の先生たちからわりあいよい生徒だとみられている	30.6	27.6	39.6	21.2	20.9	22.6	40.5	36.2	50.0		
学校の先生たちからあまりよい生徒だとはみられていない	69.4	72.4	60.4	78.8	79.1	77.4	59.5	63.8	50.0		
〈親の評価〉	100% (820)	100% (613)	100% (207)	100% (291)	100% (239)	100% (52)	100% (276)	100% (190)	100% (86)	100% (115)	100% (105)
親からわりあいよい子だとみられている	24.5	23.7	27.1	23.4	24.3	19.2	36.6	33.7	43.0	13.0	10.5
親からあまりよい子だとはみられていない	75.5	76.4	73.0	76.6	75.7	80.8	63.4	66.3	57.0	87.0	89.5
〈友人の評価〉	100% (810)	100% (606)	100% (204)	100% (289)	100% (237)	100% (52)	100% (274)	100% (189)	100% (85)	100% (113)	100% (102)
友達からわりあいよい友達だとみられている	72.8	72.8	73.0	64.7	67.1	53.9	81.0	77.8	88.2	77.9	66.7
友達からあまりよい友達だとはみられていない	27.2	27.2	27.0	35.3	32.9	46.2	19.0	22.2	11.8	22.1	33.3
〈自身の評価〉	100% (566)	100% (428)	100% (138)	100% (291)	100% (239)	100% (52)	100% (275)	100% (189)	100% (86)		
自分自身ではあまり問題のない生徒だと思う	35.7	34.3	39.9	29.2	29.3	28.9	42.6	40.7	46.5		
自分自身ではわりあい問題のある生徒だと思う	64.3	65.7	60.1	70.8	70.7	71.2	57.5	59.3	53.5		

1. () 内はサンプルの実数。

表9 将来の自己についての本人自身のイメージ

自己イメージ	一般少年								
	計	男	女	中学生			高校生		
				計	男	女	計	男	女
〈将来の幸福〉	100% (1313)	100% (618)	100% (695)	100% (629)	100% (319)	100% (310)	100% (684)	100% (299)	100% (385)
どちらかといえば、幸福な生活を送ることができる	74.0	71.0	76.7	73.1	69.3	77.1	74.9	72.9	76.4
あまり幸福な生活はおくない	26.0	29.0	23.3	26.9	30.7	22.9	25.2	27.1	23.6
〈自己実現〉	100% (1318)	100% (620)	100% (698)	100% (631)	100% (320)	100% (311)	100% (687)	100% (300)	100% (387)
自分の才能や能力をいかして、働くことができる	63.5	66.3	61.0	61.2	61.9	60.5	65.7	71.0	61.5
あまり自分の才能や能力をいかせない	36.5	33.7	39.0	38.8	38.1	39.6	34.4	29.0	38.5
〈出世の見込み〉	100% (1316)	100% (618)	100% (698)	100% (630)	100% (318)	100% (312)	100% (686)	100% (300)	100% (386)
ある程度出世はできる	64.9	72.2	58.5	69.1	73.9	64.1	61.1	70.3	53.9
出世のみこみはほとんどない	35.1	27.8	41.5	31.0	26.1	35.9	38.9	29.7	46.1
〈自身の社会的必要性〉	100% (1316)	100% (619)	100% (697)	100% (630)	100% (319)	100% (311)	100% (686)	100% (300)	100% (386)
社会や人びとにとって多少とも必要な人間になる	54.6	57.2	52.2	50.5	54.6	46.3	58.3	60.0	57.0
社会や人びとにとってあまり必要な人間とはならない	45.4	42.8	47.8	49.5	45.5	53.7	41.7	40.0	43.0

自己イメージ	非行少年										
	計	男	女	中学生			高校生			有職少年	無職少年
				計	男	女	計	男	女		
〈将来の幸福〉	100% (817)	100% (610)	100% (207)	100% (291)	100% (238)	100% (53)	100% (274)	100% (188)	100% (86)	100% (115)	100% (104)
どちらかといえば、幸福な生活を送ることができる	47.4	46.2	50.7	41.9	41.6	43.4	56.9	55.9	59.3	41.7	37.5
あまり幸福な生活はおくない	52.6	53.8	49.3	58.1	58.4	56.0	43.1	44.1	40.7	58.3	62.5
〈自己実現〉	100% (822)	100% (614)	100% (208)	100% (293)	100% (240)	100% (53)	100% (276)	100% (190)	100% (86)	100% (115)	100% (105)
自分の才能や能力をいかして、働くことができる	43.7	45.6	38.0	42.0	46.3	22.6	45.3	45.8	44.2	40.0	42.9
あまり自分の才能や能力をいかせない	56.3	54.4	62.0	58.0	53.8	77.4	54.7	54.2	55.8	60.0	57.1
〈出世の見込み〉	100% (818)	100% (610)	100% (208)	100% (290)	100% (237)	100% (53)	100% (275)	100% (189)	100% (86)	100% (115)	100% (105)
ある程度出世はできる	41.1	45.6	27.9	36.9	40.9	18.9	44.4	50.3	31.4	42.6	35.2
出世のみこみはほとんどない	58.9	54.4	72.1	63.1	59.1	81.1	55.6	49.7	68.6	57.4	64.8
〈自身の社会的必要性〉	100% (817)	100% (610)	100% (207)	100% (290)	100% (237)	100% (53)	100% (275)	100% (190)	100% (85)	100% (115)	100% (105)
社会や人びとにとって多少とも必要な人間になる	46.1	50.0	34.8	45.5	50.2	24.5	50.2	53.7	42.4	40.9	39.1
社会や人びとにとってあまり必要な人間とはならない	53.9	50.0	65.2	54.5	49.8	75.5	49.8	46.3	57.7	59.1	61.0

1. () 内はサンプルの実数。

表10 非行の類型・前歴の有無別にみた現在および将来の自己についての本人自身のイメージ

自 己 イ メ ー ジ		非 行 の 類 型					前 歴 の 有 無		
		初 発 型 非 行	粗 暴 犯 非 行	薬 物 非 行	そ の 他 の 非 行	χ^2 検 定	な し	あ り	χ^2 検 定
現 在 の 自 己 に つ い て の イ メ ー ジ	〈教師の評価〉	100% (367)	100% (64)	100% (51)	100% (85)	***	100% (440)	100% (127)	***
	学校の先生たちからわりあいよい生徒だとみられている	37.9	20.3	7.8	20.0		36.4	10.2	
	学校の先生たちからあまりよい生徒だとはみられていない	62.1	79.7	92.2	80.0		63.6	89.8	
	〈親の評価〉	100% (448)	100% (95)	100% (157)	100% (120)	***	100% (547)	100% (275)	***
	親からわりあいよい子だとみられている	32.6	15.8	10.2	20.0		31.4	10.6	
	親からあまりよい子だとはみられていない	67.4	84.2	89.8	80.0		68.6	89.5	
	〈友人の評価〉	100% (444)	100% (93)	100% (155)	100% (118)	***	100% (542)	100% (270)	**
	友達からわりあいよい友達だとみられている	77.9	66.7	67.1	65.3		75.3	67.8	
	友達からあまりよい友達だとはみられていない	22.1	33.3	32.9	34.8		24.7	32.2	
	〈自身の評価〉	100% (368)	100% (64)	100% (50)	100% (85)	***	100% (441)	100% (126)	***
	自分自身ではあまり問題のない生徒だと思う	42.9	20.3	10.0	30.6		41.5	15.1	
	自分自身ではわりあい問題のある生徒だと思う	57.1	79.7	90.0	69.4		58.5	84.9	
将 来 の 自 己 に つ い て の イ メ ー ジ	〈将来の幸福〉	100% (444)	100% (95)	100% (158)	100% (120)	***	100% (544)	100% (275)	***
	どちらかといえば、幸福な生活を送ることができる	52.5	35.8	42.4	44.2		52.6	36.7	
	あまり幸福な生活はおくない	47.5	64.2	57.6	55.8		47.4	63.3	
	〈自己実現〉	100% (449)	100% (95)	100% (158)	100% (120)	*	100% (548)	100% (276)	
	自分の才能や能力をいかして、働くことができる	47.2	41.1	35.4	43.3		45.1	40.6	
	あまり自分の才能や能力をいかせない	52.8	59.0	64.6	56.7		54.9	59.4	
	〈出世の見込み〉	100% (445)	100% (95)	100% (158)	100% (120)	**	100% (545)	100% (275)	
	ある程度の出世はできる	43.2	45.3	30.4	44.2		41.5	40.0	
	出世のみこみはほとんどない	56.9	54.7	69.6	55.8		58.5	60.0	
	〈自身の社会的必要性〉	100% (445)	100% (94)	100% (158)	100% (120)	***	100% (545)	100% (274)	**
	社会や人びとにとって多少とも必要な人間になる	50.1	41.5	34.2	50.0		48.8	40.5	
	社会や人びとにとってあまり必要な人間にはならない	49.9	58.5	65.8	50.0		51.2	59.5	

1. () 内はサンプルの実数。ただし、非行少年のみ。

2. χ^2 検定 *** : $P < 0.01$ ** : $P < 0.05$ * : $P < 0.1$

非行の少年に最も少ないという傾向が認められる。友人の評価については、初発型非行の少年に肯定的イメージが多く、否定的イメージが少ないという点では他の場合と同じであるが、粗暴犯非行の少年と薬物非行の少年との間で差がみられていないという点で異なっている。

将来の自己についてのイメージでは、出世の見込を除く将来の幸福、自己実現、自身の社会的必要性の3つにおいて、初発型非行の少年に肯定的イメージが最も多く、否定的イメージが最も少ないという傾向が認められる。他の2つの非行類型間では、将来の幸福については薬物非行の少年に肯定的イメージがより多く、粗暴犯少年に否定的イメージがより多くみられているが、自己実現と自身の社会的必要性については、粗暴犯少年に肯定的イメージがより多く、薬物非行の少年に否定的イメージがより多くみられている。以上に対して、出世の見込については、薬物非行の少年に肯定的イメージが最も少なく、否定的イメージが最も多いという傾向が認められるが、初発型非行の少年と粗暴犯少年との間には差がみられない。

つぎに、前歴の有無別にみると、将来の自己実現と出世の見込については差がみられないが、他の6つについては、いずれも前歴なしの少年に肯定的イメージがより多く、前歴ありの少年に否定的イメージがより多いという傾向が認められる。ただし、友人の評価と自身の社会的必要性に関しては、前歴の有無による差はそれほど大きくはない。

3) 逸脱行動の経験の有無別にみた自己イメージの比較

一般少年を対象に現在および将来の自己についての本人自身のイメージを逸脱行動の経験の有無別にみてみたのが表11～表16である。これらの表から得られる知見は、以下のとおりである。

ア 現在の自己についてのイメージ

教師の評価と親の評価および自分自身による自己評価に関しては、怠学経験、不良経験、犯罪経験のいずれにおいても、経験なしの少年の方に肯定的イメージをもつ者が多く、反対に否定的イメージをもつ者が少ないという傾向が、一般的に認められる。ただし、中学生の男子においては、教師の評価と親の評価に関して、怠学経験の有無別と犯罪経験の有無別によるイメージの違いは、ほとんどみられてない。友人の評価に関しては、中学生の女子で不良経験の有無と犯罪経験の有無による違いが、高校生の女子で怠学経験の有無による違いがみられており、いずれにおいても、経験なしの少年の方に肯定的イメージをもつ者が多く、反対に否定的イメージをもつ者が少ないという傾向がみられている。高校生男子においても怠学経験の有無による違いがみられているが、この場合は、経験ありの少年の方に肯定的イメージをもつ者が多く、反対に否定的イメージをもつ者が少ないという傾向をみせている。

イ 将来の自己についてのイメージ

将来の自己についてのイメージと逸脱行動の経験の有無との関連性は、一般的傾向として認められない。実数の大きさによる影響もあるが、表14～表16において危険率10%以下で有

表11 一般少年の逸脱行動の経験の有無別にみた現在の自己についての本人自身のイメージ（男女計）

		中 学 生						高 校 生					
		怠学経験		不良経験		犯罪経験		怠学経験		不良経験		犯罪経験	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
教師の 評価	よい生徒だとみられている	34.9	50.4	30.5	53.4	37.3	49.2	42.3	76.5	44.3	74.8	44.2	68.0
	よい生徒だとはみられていない	65.1	49.6	69.5	46.6	62.7	50.8	57.7	23.5	55.7	25.2	55.8	32.0
	計	100% (106)	100% (522)	100% (154)	100% (474)	100% (75)	100% (553)	100% (253)	100% (429)	100% (246)	100% (436)	100% (120)	100% (562)
	χ^2 検定	***		***		*		***		***		***	
親の 評価	よい子だとみられている	41.1	52.2	33.8	55.7	38.7	51.9	49.8	73.6	51.4	72.2	46.7	68.6
	よい子だとはみられていない	58.9	47.8	66.2	44.3	61.3	48.1	50.2	26.5	48.6	27.8	53.3	31.4
	計	100% (107)	100% (521)	100% (154)	100% (474)	100% (75)	100% (553)	100% (253)	100% (431)	100% (245)	100% (439)	100% (120)	100% (564)
	χ^2 検定	**		***		**		***		***		***	
友人の 評価	よい友達だとみられている	59.8	65.8	58.8	66.7	61.3	65.3	73.2	74.9	71.7	75.8	74.2	74.3
	よい友達だとはみられていない	40.2	34.2	41.2	33.3	38.7	34.7	26.8	25.1	28.3	24.3	25.8	25.7
	計	100% (107)	100% (515)	100% (153)	100% (469)	100% (75)	100% (547)	100% (250)	100% (427)	100% (244)	100% (433)	100% (120)	100% (557)
	χ^2 検定			*									
自身の 評価	問題のない生徒だと思う	52.3	75.7	54.6	77.3	54.7	74.1	64.6	85.0	64.6	84.6	60.0	81.1
	問題のある生徒だと思う	47.7	24.3	45.5	22.7	45.3	26.0	35.4	15.0	35.4	15.4	40.0	18.9
	計	100% (107)	100% (523)	100% (154)	100% (476)	100% (75)	100% (555)	100% (254)	100% (433)	100% (246)	100% (441)	100% (120)	100% (567)
	χ^2 検定	***		***		***		***		***		***	

1. 怠学経験, 不良経験, 犯罪経験については表7の注2を参照。

2. () 内はサンプルの実数。

3. χ^2 検定 *** : $P < 0.01$ ** : $P < 0.05$ * : $P < 0.1$

表12 一般少年の逸脱行動の経験の有無別にみた現在の自己についての本人自身のイメージ（男）

		中 学 生						高 校 生					
		怠学経験		不良経験		犯罪経験		怠学経験		不良経験		犯罪経験	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
教師の 評価	よい生徒だとみられている	42.2	49.3	36.4	54.6	45.8	48.8	40.3	70.7	43.5	70.2	43.8	61.9
	よい生徒だとはみられていない	57.8	50.7	63.6	45.4	54.2	51.2	59.7	29.3	56.5	29.8	56.3	38.1
	計	100% (45)	100% (272)	100% (110)	100% (207)	100% (59)	100% (258)	100% (134)	100% (164)	100% (147)	100% (151)	100% (80)	100% (218)
	χ^2 検定			***				***		***		***	
親の 評価	よい子だとみられている	43.5	51.7	37.3	57.5	44.1	51.9	47.4	70.3	51.0	68.6	50.0	63.6
	よい子だとはみられていない	56.5	48.3	62.7	42.5	55.9	48.1	52.6	29.7	49.0	31.4	50.0	36.4
	計	100% (46)	100% (271)	100% (110)	100% (207)	100% (59)	100% (258)	100% (135)	100% (165)	100% (147)	100% (153)	100% (80)	100% (220)
	χ^2 検定			***				***		***		**	
友人の 評価	よい友達だとみられている	65.2	66.5	64.6	67.3	67.8	66.0	77.4	67.1	71.9	71.5	76.3	70.1
	よい友達だとはみられていない	34.8	33.5	35.5	32.7	32.2	34.0	22.6	32.9	28.1	28.5	23.8	30.0
	計	100% (46)	100% (269)	100% (110)	100% (205)	100% (59)	100% (256)	100% (133)	100% (164)	100% (146)	100% (151)	100% (80)	100% (217)
	χ^2 検定							**					
自身の 評価	問題のない生徒だと思う	54.4	77.7	59.1	82.3	64.4	76.5	57.8	78.8	59.9	78.4	56.3	74.1
	問題のある生徒だと思う	45.7	22.3	40.9	17.7	35.6	23.5	42.2	21.2	40.1	21.6	43.8	25.9
	計	100% (46)	100% (273)	100% (110)	100% (209)	100% (59)	100% (260)	100% (135)	100% (165)	100% (147)	100% (153)	100% (80)	100% (220)
	χ^2 検定	***		***		*		***		***		***	

※ 表11の注1～3を参照

表13 一般少年の逸脱行動の経験の有無別にみた現在の自己についての本人自身のイメージ（女）

		中 学 生						高 校 生					
		怠学経験		不良経験		犯罪経験		怠学経験		不良経験		犯罪経験	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
教師 の 評 価	よい生徒だとみられて いる	29.5	51.6	15.9	52.4	6.3	49.5	44.5	80.0	45.5	77.2	45.0	71.8
	よい生徒だとはみられ ていない	70.5	48.4	84.1	47.6	93.7	50.5	55.5	20.0	54.6	22.8	55.0	28.2
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検 定	(61)	(250)	(44)	(267)	(16)	(295)	(119)	(265)	(99)	(285)	(40)	(344)
親 の 評 価	よい子だとみられてい る	39.3	52.8	25.0	54.3	18.8	51.9	52.5	75.6	52.0	74.1	40.0	71.8
	よい子だとはみられ ていない	60.7	47.2	75.0	45.7	81.3	48.1	47.5	24.4	48.0	25.9	60.0	28.2
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検 定	(61)	(250)	(44)	(267)	(16)	(295)	(118)	(266)	(98)	(286)	(40)	(344)
友人 の 評 価	よい友達だとみられて いる	55.7	65.0	44.2	66.3	37.5	64.6	68.4	79.9	71.4	78.0	70.0	77.1
	よい友達だとはみられ ていない	44.3	35.0	55.8	33.7	62.5	35.4	31.6	20.2	28.6	22.0	30.0	22.9
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検 定	(61)	(246)	(43)	(264)	(16)	(291)	(117)	(263)	(98)	(282)	(40)	(340)
自 身 の 評 価	問題のない生徒だと思 う	50.8	73.6	43.2	73.4	18.8	71.9	72.3	88.8	71.7	87.9	67.5	85.6
	問題のある生徒だと思 う	49.2	26.4	56.8	26.6	81.3	28.1	27.7	11.2	28.3	12.2	32.5	14.4
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検 定	(61)	(250)	(44)	(267)	(16)	(295)	(119)	(268)	(99)	(288)	(40)	(347)

※ 表11の注1～3を参照

意差が認められたのは、中学生男女計における幸福および自己実現の可能性と不良経験の有無との関連性、中学生男子における自己実現の可能性と不良経験の有無との関連性、高校生女子における社会的必要と犯罪経験の有無との関連性のみである。これらに関していえば、いずれにおいても経験なしの少年の方に肯定的イメージをもつ者が多く、反対に否定的イメージをもつ者が少ないという傾向がみられている。しかし、その差は、現在の自己についてのイメージの場合ほどに大きくはない。

(3) 文化的目標の内面化と自己イメージとの関連

文化的目標の内面化と自己イメージとの関連を、イメージ項目別の文化的目標の内面化者の割合からみてみたのが表17～表19である。これらの表から読み取れる傾向を大まかに整理して、文化的目標のそれぞれについてみると、以下のとおりである。

ア 「人の上に立つ」

現在の自己イメージとの関連では、①一般少年中学生男子と非行少年男子で部分的に認められる以外には、自己イメージとの明確な関連性は、ほとんど認められない、②一般少年中学生男子では親の評価や友人の評価に関して、また非行少年男子では友人の評価に関して肯定的なイメージをもつ者の方に内面化者が相対的に多い、等の傾向が指摘される。

将来の自己イメージとの関連では、一般少年と非行少年のいずれにおいても、また男女をとわず、肯定的イメージをもつ者の方に内面化者が相対的に多いという傾向が認められる。

表14 一般少年の逸脱行動の経験の有無別にみた将来の自己についての本人自身のイメージ（男女計）

		中 学 生						高 校 生					
		怠学経験		不良経験		犯罪経験		怠学経験		不良経験		犯罪経験	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
幸福	幸福な生活を送ることができる	75.9	72.6	66.7	75.2	70.7	73.5	72.3	76.3	74.3	75.2	72.5	75.4
	幸福な生活は送れない	24.1	27.5	33.3	24.8	29.3	26.5	27.7	23.7	25.7	24.8	27.5	24.7
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検定	(108)	(521)	(153)	(476)	(75)	(554)	(253)	(431)	(245)	(439)	(120)	(564)
自己実現	才能や能力をいかせる	60.2	61.4	55.2	63.1	64.0	60.8	63.0	67.2	67.5	64.6	65.0	65.8
	才能や能力をいかせない	39.8	38.6	44.8	36.9	36.0	39.2	37.0	32.8	32.5	35.4	35.0	34.2
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検定	(108)	(523)	(154)	(477)	(75)	(556)	(254)	(433)	(246)	(441)	(120)	(567)
出世	ある程度出世はできる	67.6	69.4	68.2	69.3	67.6	69.2	61.4	60.9	63.8	59.6	62.5	60.8
	出世のみこみはほとんどない	32.4	30.7	31.8	30.7	32.4	30.8	38.6	39.1	36.2	40.5	37.5	39.2
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検定	(108)	(522)	(154)	(476)	(74)	(556)	(254)	(432)	(246)	(440)	(120)	(566)
社会的必要	社会に必要な人間になる	47.7	51.1	49.4	50.8	50.7	50.5	55.7	59.8	58.8	58.1	52.5	59.5
	社会に必要な人間にはならない	52.3	49.0	50.7	49.2	49.3	49.6	44.3	40.2	41.2	42.0	47.5	40.5
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検定	(107)	(523)	(154)	(476)	(75)	(555)	(253)	(433)	(245)	(441)	(120)	(566)

※ 表11の注1～3を参照

表15 一般少年の逸脱行動の経験の有無別にみた将来の自己についての本人自身のイメージ（男）

		中 学 生						高 校 生					
		怠学経験		不良経験		犯罪経験		怠学経験		不良経験		犯罪経験	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
幸福	幸福な生活を送ることができる	74.5	68.4	65.5	71.3	69.5	69.2	71.9	73.8	72.8	73.0	70.0	74.0
	幸福な生活は送れない	25.5	31.6	34.6	28.7	30.5	30.8	28.2	26.2	27.2	27.0	30.0	26.0
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検定	(47)	(272)	(110)	(209)	(59)	(260)	(135)	(164)	(147)	(152)	(80)	(219)
自己実現	才能や能力をいかせる	66.0	61.2	55.5	65.2	64.4	61.3	69.6	72.1	70.1	71.9	67.5	72.3
	才能や能力をいかせない	34.0	38.8	44.6	34.8	35.6	38.7	30.4	27.9	29.9	28.1	32.5	27.7
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検定	(47)	(273)	(110)	(210)	(59)	(261)	(135)	(165)	(147)	(153)	(80)	(220)
出世	ある程度出世はできる	68.1	74.9	72.7	74.5	70.7	74.6	66.7	73.3	66.7	73.9	65.0	72.3
	出世のみこみはほとんどない	31.9	25.1	27.3	25.5	29.3	25.4	33.3	26.7	33.3	26.1	35.0	27.7
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検定	(47)	(271)	(110)	(208)	(58)	(260)	(135)	(165)	(147)	(153)	(80)	(220)
社会的必要	社会に必要な人間になる	50.0	55.3	50.9	56.5	55.9	54.2	57.8	61.8	58.5	61.4	57.5	60.9
	社会に必要な人間にはならない	50.0	44.7	49.1	43.5	44.1	45.8	42.2	38.2	41.5	38.6	42.5	39.1
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検定	(46)	(273)	(110)	(209)	(59)	(260)	(135)	(165)	(147)	(153)	(80)	(220)

※ 表11の注1～3を参照

表16 一般少年の逸脱行動の経験の有無別にみた将来の自己についての本人自身のイメージ(女)

		中 学 生						高 校 生					
		怠学経験		不良経験		犯罪経験		怠学経験		不良経験		犯罪経験	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
幸福	幸福な生活を送ることができる	77.1	77.1	69.8	78.3	75.0	77.2	72.9	77.9	76.5	76.3	77.5	76.2
	幸福な生活は送れない	23.0	22.9	30.2	21.7	25.0	22.8	27.1	22.1	23.5	23.7	22.5	23.8
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検定	(61)	(249)	(43)	(267)	(16)	(294)	(118)	(267)	(98)	(287)	(40)	(345)
自己実現	才能や能力をいかせる	55.7	61.6	54.6	61.4	62.5	60.3	55.5	64.2	63.6	60.8	60.0	61.7
	才能や能力をいかせない	44.3	38.4	45.5	38.6	37.5	39.7	44.5	35.8	36.4	39.2	40.0	38.3
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検定	(61)	(250)	(44)	(267)	(16)	(295)	(119)	(268)	(99)	(288)	(40)	(347)
出世	ある程度の出世はできる	67.2	63.4	56.8	65.3	56.3	64.5	55.5	53.2	59.6	51.9	57.5	53.5
	出世のみこみはほとんどない	32.8	36.7	43.2	34.7	43.8	35.5	44.5	46.8	40.4	48.1	42.5	46.5
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検定	(61)	(251)	(44)	(268)	(16)	(296)	(119)	(267)	(99)	(287)	(40)	(346)
社会的必要	社会に必要な人間になる	45.9	46.4	45.5	46.4	31.3	47.1	53.4	58.6	59.2	56.3	42.5	58.7
	社会に必要な人間にはならない	54.1	53.6	54.6	53.6	68.8	52.9	46.6	41.4	40.8	43.8	57.5	41.3
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検定	(61)	(250)	(44)	(267)	(16)	(295)	(118)	(268)	(98)	(288)	(40)	(346)

※ 表11の注1～3を参照

イ 「金持ちになる」

現在の自己イメージとの関連では、①一般少年中学生男子で友人の評価および自己自身の評価との関連性が、また非行少年女子で教師の評価および自己自身の評価との関連性が認められる以外には、概して明確な関連性は認められない、②一般少年中学生男子では、友人や自己自身による評価に関して肯定的イメージをもつ者に内面化者が相対的に多い、③非行少年女子では、自己自身による評価に関しては肯定的イメージをもつ者に、しかし教師の評価に関しては否定的イメージをもつ者に、内面化者が相対的に多い、等の傾向が指摘される。

将来の自己イメージとの関連では、①非行少年では、男女ともに明確な関連性は認められない、②一般少年では、中学生男子で、イメージ項目の別をとわず、肯定的イメージをもつ者に内面化者が相対的に多いという一般的傾向が認められるほか、③中学生女子と高校生男子においては出世の可能性について肯定的イメージをもつ者に、また高校生女子においては幸福と出世の可能性について肯定的イメージをもつ者に、内面化者が相対的に多い、という傾向がみられている。

ウ 「大学進学」

現在の自己イメージとの関連では、①非行少年では、男女とも、イメージ項目の別をとわず、明らかに肯定的イメージをもつ者に内面化者が相対的に多い、②一般少年においても、教師の評価（ただし高校生の場合のみ）や友人の評価との関連性を除けば、それほど顕著で

はないがおおむね同様である(ただし、高校生女子では親の評価との関連性のみ認められる)、
③一般少年では、友人の評価との関連性はほとんどない、等の傾向が指摘される。

将来の自己イメージとの関連では、①非行少年では、男子で自己実現の可能性に関するイメージとの関連性が認められない以外は、男女とも、イメージ項目の別をとわず、明らかに肯定的イメージをもつ者に内面化者が相対的に多い、②一般少年においても、ほぼ同様の傾向が認められるが、その傾向は非行少年の場合ほどには顕著でない、といった点などが指摘される(中学生男子で自己実現の可能性との関連性が、また高校生男子で幸福の可能性および自己実現の可能性との関連性が認められない)。

(4) 学校生活への適格的行動様式と逸脱行動の経験の有無との関連

一般少年の中・高生を対象として、1) 適応困難な勉学状況への対応(体調の悪い時の対応——医者に行くほどではないが、体の調子が悪くて、学校へ行くのがつらいときの行動様式——;宿題がたくさんのかのときの対応——簡単にはできそうもない宿題をたくさんだされたときの行動様式——)、2) ふだんの勉学の状況(毎日の授業の予習や復習;学校の宿題;受験のための勉強)、3) 授業の主観的理解度と試験の結果を、逸脱行動の経験の有無別にみてみたのが、表20～表22、表23～表25、表26～表28である。

1) 逸脱行動の経験の有無別にみた適応困難な勉学状況への対応(表20～表22)

ア 体調の悪いときの対応

男女とも、怠学、不良、犯罪のすべてのケースにおいて、「がまんして学校へ行くようにしている」が経験なしの少年の方に、「学校を休むことが多い」が経験ありの少年の方に多い(ただし、 $P<0.01$ で統計的有意差がすべてのケースに認められる高校生についての傾向)。

イ 宿題がたくさんのかのときの対応

中・高生および男女とも、怠学、不良、犯罪のすべてのケースにおいて、「やれるだけやっ払いこうと頑張る」が経験なしの少年の方に、「やらないですませてしまうことが多い」が経験ありの少年の方に多い。

2) 逸脱行動の経験の有無別にみたふだんの勉学の状況(表23～表25)

ア 予習や復習

男女とも、怠学、不良、犯罪のすべてのケースにおいて、「よくやっている」や「多少はやっている」もしくはその両者が経験なしの少年の方に、「ほとんどやっていない」が経験ありの少年の方に多い(ただし、 $P<0.05$ で統計的有意差がすべてのケースに認められる高校生についての傾向)。

イ 学校の宿題

中・高生とも、また男女とも、怠学、不良、犯罪のすべてのケースにおいて、「よくやっ

表17 自己についての本人自身のイメージ別にみた文化的

文 化 的 目 標	現 在 の 自 己 に つ い て の イ メ ー ジ											
	教 師 の 評 価			親 の 評 価			友 人 の 評 価			自 身 の 評 価		
	れて いる	よい 生徒だ とみ られて いない	χ^2 検 定	て い る	よい 子だ とみ られ てい ない	χ^2 検 定	れて いる	よい 友 達だ とみ られ てい ない	χ^2 検 定	と 思 う	問 題 の な い 生 徒 だ	χ^2 検 定
計	サンプル数	300	328		316	312		403	219		452	178
	人	300	328		316	312		403	219		452	178
		293	319		307	305		390	216		440	174
	人の上に立つ	25.3	23.5		26.9	21.5		27.0	18.7	**	26.3	19.7
	金持ちになる	47.7	48.2		49.1	46.5		51.4	41.1	**	50.7	41.0
男	大学進学	70.0	58.6	***	69.1	58.7	***	65.6	61.1		68.6	52.3
	人	153	164		160	157		209	106		237	82
	人	153	164		160	157		209	106		237	82
	人の上に立つ	148	162		156	154		203	105		232	80
	金持ちになる	38.6	31.1		39.4	29.3	*	38.3	26.4	**	37.1	28.1
女	大学進学	56.9	51.2		55.6	51.6		58.9	43.4	***	57.8	42.7
	人	87.8	76.5	***	88.5	74.7	***	83.3	78.1		86.2	68.8
	人	147	164		156	155		194	113		215	96
	人	147	164		156	155		194	113		215	96
	人の上に立つ	145	157		151	151		187	111		208	94
女	金持ちになる	11.6	15.9		14.1	13.6		15.0	11.5		14.4	12.5
	大学進学	38.1	45.1	**	42.3	41.3		43.3	38.9		42.8	39.6
	人	51.7	40.1	**	49.0	42.4		46.5	45.1		49.0	38.3
	人											
	人の上に立つ											*

1. 文化的目標とサンプル数については、表1を参照。
 2. χ^2 検定 *** : $P < 0.01$ ** : $P < 0.05$ * : $P < 0.1$

表18 自己についての本人自身のイメージ別にみた文化的

文 化 的 目 標	現 在 の 自 己 に つ い て の イ メ ー ジ											
	教 師 の 評 価			親 の 評 価			友 人 の 評 価			自 身 の 評 価		
	れて いる	よい 生徒だ とみ られて いない	χ^2 検 定	て い る	よい 子だ とみ られ てい ない	χ^2 検 定	れて いる	よい 友 達だ とみ られ てい ない	χ^2 検 定	と 思 う	問 題 の な い 生 徒 だ	χ^2 検 定
計	サンプル数	434	247		442	241		503	173		532	154
	人	433	246		441	240		501	173		530	154
	人	416	240		428	230		482	169		510	151
	人の上に立つ	23.3	25.5		24.4	22.8		22.7	27.7		22.9	27.3
	金持ちになる	44.6	45.5		47.2	40.4	*	45.3	42.8		45.1	43.5
男	大学進学	68.0	66.3		69.9	62.6	*	66.4	69.2		66.9	68.2
	人	169	128		179	120		213	83		208	91
	人	169	128		179	120		213	83		208	91
	人の上に立つ	164	125		175	116		206	82		200	91
	金持ちになる	36.7	39.8		39.7	35.0		35.7	43.4		36.5	40.7
女	大学進学	44.4	50.0		49.2	43.3		48.8	39.8		46.6	47.3
	人	89.0	83.2		90.9	80.2	***	86.4	86.6		89.5	80.2
	人	265	119		263	121		290	90		324	63
	人	264	118		262	120		288	90		322	63
	人の上に立つ	252	115		253	114		276	87		310	60
女	金持ちになる	14.7	10.1		14.1	10.7		13.1	13.3		14.2	7.9
	大学進学	44.7	40.7		45.8	37.5		42.7	45.6		44.1	38.1
	人	54.4	47.8		55.3	44.7	*	51.5	52.9		52.3	50.0
	人											
	人の上に立つ											

1. 文化的目標とサンプル数については、表1を参照。
 2. χ^2 検定 *** : $P < 0.01$ ** : $P < 0.05$ * : $P < 0.1$

目標の内面化者の割合（一般少年 中学生 %）

将 来 の 自 己 に つ い て の イ メ ー ジ											
幸 福			自 己 実 現			出 世			社 会 的 必 要		
幸 福 な 生 活 を 送 る 可 が 可	幸 福 な 生 活 は 送 れ ない	χ^2 検 定	才 能 や 能 力 を い か せ る	才 能 や 能 力 を い か せ ない	χ^2 検 定	あ る 程 度 の 出 世 は 可	出 世 の み こ み は ほと ん ど ない	χ^2 検 定	社 会 に 必 要 な 人 間 に な る	社 会 に 必 要 な 人 間 に は な ら ない	χ^2 検 定
460	169		386	245		435	195		318	312	
460	169		386	245		435	195		318	312	
448	165		377	238		426	188		310	304	
26.7	18.3	**	29.5	16.3	***	29.7	12.8	***	34.9	13.8	***
49.8	43.2		52.3	40.8	***	53.1	36.4	***	52.8	42.6	***
67.2	55.8	***	66.6	60.1		70.7	48.9	***	71.9	55.6	***
221	98		198	122		235	83		174	145	
221	98		198	122		235	83		174	145	
214	98		193	120		230	81		168	144	
38.5	26.5	**	41.4	23.8	***	38.7	24.1	**	47.1	20.0	***
57.5	45.9	*	60.6	42.6	***	59.2	39.8	***	60.9	44.8	***
87.4	69.4	***	86.5	74.2	***	87.0	67.9	***	88.1	73.6	***
239	71		188	123		200	112		144	167	
239	71		188	123		200	112		144	167	
234	67		184	118		196	107		142	160	
15.9	7.0	*	17.0	8.9	**	19.0	4.5	***	20.1	8.4	**
42.7	39.4		43.6	39.0		46.0	33.9	**	43.1	40.7	
48.7	35.8	*	45.7	45.8		51.5	34.6	***	52.8	39.4	**

目標の内面化者の割合（一般少年 高校生 %）

将 来 の 自 己 に つ い て の イ メ ー ジ											
幸 福			自 己 実 現			出 世			社 会 的 必 要		
幸 福 な 生 活 を 送 る 可 が 可	幸 福 な 生 活 は 送 れ ない	χ^2 検 定	才 能 や 能 力 を い か せ る	才 能 や 能 力 を い か せ ない	χ^2 検 定	あ る 程 度 の 出 世 は 可	出 世 の み こ み は ほと ん ど ない	χ^2 検 定	社 会 に 必 要 な 人 間 に な る	社 会 に 必 要 な 人 間 に は な ら ない	χ^2 検 定
512	171		450	236		418	267		399	286	
511	170		449	235		417	266		398	285	
492	166		441	220		406	254		384	276	
25.8	18.1	**	29.8	12.7	***	32.5	10.5	***	29.3	16.1	***
47.0	38.2	**	45.4	43.4		51.6	34.2	***	44.5	44.9	
68.9	61.4	*	71.4	58.6	***	76.1	53.1	***	72.9	59.1	***
218	80		212	87		210	89		179	120	
218	80		212	87		210	89		179	120	
212	78		209	82		204	87		175	116	
41.7	27.5	**	43.4	24.1	***	44.8	21.4	***	43.0	30.0	**
48.6	42.5		44.8	51.7		51.9	34.8	***	44.7	50.0	
88.2	82.1		87.1	85.4		92.2	73.6	***	89.7	81.9	*
294	91		238	149		208	178		220	166	
293	90		237	148		207	177		219	165	
280	88		232	138		202	167		209	160	
14.0	9.9		17.7	6.0	***	20.2	5.1	***	18.2	6.0	***
45.7	34.4	*	46.0	38.5		51.2	33.9	***	44.3	41.2	
54.3	43.2	*	57.3	42.8	***	59.9	42.5	***	58.9	42.5	***

表19 自己についての本人自身のイメージ別にみた文化的

文 化 的 目 標		現 在 の 自 己 に つ い て の イ メ ー ジ											
		教 師 の 評 価			親 の 評 価			友 人 の 評 価			自 身 の 評 価		
		よ い 生 徒 だ と み ら れ て い る	よ い 生 徒 だ と は み ら れ て い ない	χ^2 検 定	よ い 子 だ と み ら れ て い る	よ い 子 だ と は み ら れ て い ない	χ^2 検 定	よ い 友 達 だ と み ら れ て い る	よ い 友 達 だ と は み ら れ て い ない	χ^2 検 定	と 問 題 の な い 生 徒 だ と 思 う	と 問 題 の あ る 生 徒 だ と 思 う	χ^2 検 定
計	サンプル数	173	393		201	619		590	220		202	364	
	人	171	392		199	618		587	220		200	363	
		168	378		163	388		399	149		194	352	
	人の上に立つ	21.4	17.8		22.4	20.7		21.9	18.2		20.3	18.1	
	金持ちになる	46.8	54.6	*	50.3	57.6	*	53.8	60.5		53.5	51.2	
	大学進学	42.3	16.9	***	42.9	17.5	***	29.1	14.1	***	42.3	15.3	***
男	サンプル数	118	309		145	468		441	165		147	281	
	人	117	308		144	467		439	165		146	280	
		114	298		118	300		301	115		142	271	
	人の上に立つ	23.7	20.4		24.8	24.4		25.9	19.4	*	21.8	21.0	
	金持ちになる	52.1	54.2		52.1	58.9		54.9	63.0		52.1	54.3	
	大学進学	50.0	18.1	***	48.3	19.0	***	31.6	15.7	***	47.2	16.6	***
女	サンプル数	55	84		56	151		149	55		55	83	
	人	54	84		55	151		148	55		54	83	
		54	80		45	88		98	34		52	81	
	人の上に立つ	16.4	8.3		16.1	9.3		10.1	14.6		16.4	8.4	
	金持ちになる	35.2	56.0	**	45.5	53.6		50.7	52.7		57.4	41.0	*
	大学進学	25.9	12.5	**	28.9	12.5	**	21.4	8.8	*	28.9	11.1	***

1. 文化的目標とサンプル数については、表1を参照。ただし、大学進学には短大までの進学希望を含む。
2. χ^2 検定 *** : $P<0.01$ ** : $P<0.05$ * : $P<0.1$

表20 逸脱行動の経験の有無別にみた適応困難な勉学状況への対応（一般少年 男女計）

		中 学 生						高 校 生					
		怠学経験		不良経験		犯罪経験		怠学経験		不良経験		犯罪経験	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
体調の悪いときの対応	がまんして学校へ行くようにしている	34.9	36.9	40.0	35.4	40.0	36.1	20.2	48.7	26.9	44.4	21.0	41.8
	学校へ行くようにしているが、ときには休む	33.9	35.2	34.2	35.2	34.7	35.0	41.5	31.2	40.4	32.0	38.7	34.2
	学校を休むことが多い	18.4	9.7	10.3	11.5	10.7	11.3	30.0	8.6	25.3	11.6	31.9	13.2
	それほど体調を悪くしたことがないので、よくわからない	12.8	18.3	15.5	17.9	14.7	17.7	8.3	11.6	7.4	12.0	8.4	10.8
	計	(109)	(526)	(155)	(480)	(75)	(560)	(253)	(433)	(245)	(441)	(119)	(567)
	χ^2 検 定	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
宿題がたくさんのときの対応	やれるだけやっいてこうと頑張る	13.9	31.6	23.4	30.2	25.7	28.9	14.2	34.2	16.7	32.5	15.0	29.3
	できるだけ頑張るが、あまりやっいていかないときもある	50.9	48.3	42.2	50.8	37.8	50.2	51.4	49.9	54.1	48.4	46.7	51.2
	やらないですませてしまうことが多い	27.8	7.8	25.3	6.7	31.1	8.6	19.4	4.9	15.9	7.1	23.3	7.4
	そんなにたくさん出されたことがないので、よくわからない	7.4	12.4	9.1	12.3	5.4	12.3	15.0	11.1	13.4	12.1	15.0	12.0
	計	(108)	(526)	(154)	(480)	(74)	(560)	(253)	(433)	(246)	(440)	(120)	(566)
	χ^2 検 定	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

1. 怠学経験、不良経験、犯罪経験については表7の注2を参照。
2. () 内はサンプルの実数。
3. χ^2 検定 *** : $P<0.01$ ** : $P<0.05$ * : $P<0.1$

目標の内面化者の割合（非行少年 ⅔）

将来の自己についてイメージ											
幸福			自己実現			出世			社会的必要		
幸福な生活を送ることができる	幸福な生活は送れない	χ^2 検定	才能や能力をいかにせる	才能や能力をいかにせない	χ^2 検定	ある程度の出世はできる	出世のみこみはほとんどない	χ^2 検定	社会に必要な人間になる	社会に必要な人間にはならない	χ^2 検定
387	430		359	463		336	482		377	440	
384	430		358	461		334	481		376	438	
272	277		244	309		225	324		260	289	
26.1	16.7	***	31.5	13.2	***	33.9	12.2	***	28.9	14.3	***
58.1	54.2		52.8	58.4		58.7	54.1		53.7	57.8	
32.4	17.7	***	29.1	21.7	**	37.8	16.0	***	35.4	15.9	***
282	328		280	334		278	332		305	305	
280	328		279	333		276	332		304	304	
200	215		194	225		189	226		213	203	
30.5	19.5	***	35.4	15.6	***	36.0	15.1	***	31.2	17.7	***
60.0	55.2		54.1	60.1		59.1	56.0		54.9	59.9	
35.5	19.5	***	28.9	25.8		38.1	18.1	***	34.7	19.7	***
105	102		79	129		58	150		72	135	
104	102		79	128		58	149		72	134	
72	62		50	84		36	98		47	86	
14.3	7.8		17.7	7.0	**	24.1	6.0	***	19.4	6.7	***
52.9	51.0		48.1	53.9		56.9	49.7		48.6	53.0	
23.6	11.3	*	30.0	10.7	***	36.1	11.2	***	38.3	7.0	***

表21 逸脱行動の経験の有無別にみた適応困難な勉学状況への対応（一般少年 ⅔）

		中学生						高校生					
		怠学経験		不良経験		犯罪経験		怠学経験		不良経験		犯罪経験	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
体調の悪いときの対応	がまんして学校へ行くようにしている	43.8	40.9	39.6	42.3	40.7	41.5	23.7	50.9	29.5	47.4	26.6	43.0
	学校へ行くようにしているが、ときには休む	31.3	34.1	38.7	31.0	37.3	32.8	38.5	27.3	35.6	29.2	36.7	30.8
	学校を休むことが多い	16.7	6.9	7.2	8.9	8.5	8.3	28.9	10.3	26.7	11.0	30.4	14.5
	それほど体調を悪くしたことがないので、よくわからない	8.3	18.1	14.4	17.8	13.6	17.4	8.9	11.5	8.2	12.3	6.3	11.8
	計	(48) 100%	(276) 100%	(111) 100%	(213) 100%	(59) 100%	(265) 100%	(135) 100%	(165) 100%	(146) 100%	(154) 100%	(79) 100%	(221) 100%
		χ^2 検定		*				***		***		***	
宿題がたくさんのときの対応	やるだけやっついこうと頑張る	14.9	37.0	29.1	36.2	31.0	34.3	14.1	28.5	15.0	28.8	15.0	24.6
	できるだけ頑張るが、あまりやっついけないときもある	42.6	42.8	38.2	45.1	32.8	44.9	49.6	50.3	55.8	44.4	52.5	49.1
	やらないですませてしまうことが多い	36.2	8.3	23.6	6.6	31.0	8.3	21.5	7.3	17.0	10.5	21.3	10.9
	そんなにたくさん出されたことがないので、よくわからない	6.4	12.0	9.1	12.2	5.2	12.5	14.8	13.9	12.2	16.3	11.3	15.5
	計	(47) 100%	(276) 100%	(110) 100%	(213) 100%	(58) 100%	(265) 100%	(135) 100%	(165) 100%	(147) 100%	(153) 100%	(80) 100%	(220) 100%
		χ^2 検定		***		***		***		***		**	

※ 表20の注1～3を参照。

表22 逸脱行動の経験の有無別にみた適応困難な勉強状況への対応（一般少年 女）

		中 学 生						高 校 生					
		怠学経験		不良経験		犯罪経験		怠学経験		不良経験		犯罪経験	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
体調の悪いときの対応	がまんして学校へ行くようにしている	27.9	32.4	40.9	30.0	37.5	31.2	16.1	47.4	23.2	42.9	10.0	41.0
	学校へ行くようにしているが、ときには休む	36.1	36.4	22.7	38.6	25.0	37.0	44.9	33.6	47.5	33.5	42.5	36.4
	学校を休むことが多い	19.7	12.8	18.2	13.5	18.8	13.9	31.4	7.5	23.2	11.9	35.0	12.4
	それほど体調を悪くしたことがないので、よくわからない	16.4	18.4	18.2	18.0	18.8	18.0	7.6	11.6	6.1	11.9	12.5	10.1
	計	(61)	(250)	(44)	(267)	(16)	(295)	(118)	(268)	(99)	(287)	(40)	(346)
	χ^2 検定	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		***		***		***		***		***		***	
宿題がたくさんさんのときの対応	やれるだけやっいてこう頑張る	13.1	25.6	9.1	25.5	6.3	24.1	14.4	37.7	19.2	34.5	15.0	32.4
	できるだけ頑張るが、あまりやっいていかないときもある	57.4	54.4	52.3	55.4	56.3	54.9	53.4	49.6	51.5	50.5	35.0	52.6
	やらないですませてしまうことが多い	21.3	7.2	29.6	6.7	31.3	8.8	17.0	3.4	14.1	5.2	27.5	5.2
	そんなにたくさん出されたことがないので、よくわからない	8.2	12.8	9.1	12.4	6.3	12.2	15.3	9.3	15.2	9.8	22.5	9.8
	計	(61)	(250)	(44)	(267)	(16)	(295)	(118)	(268)	(99)	(287)	(40)	(346)
	χ^2 検定	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		***		***		**		***		***		***	

※ 表20の注1～3を参照。

ている」と「多少はやっている」が経験なしの少年の方に、「あまりやっていない」（ただし、中・高生男子の犯罪経験のケースを除く）と「ほとんどやっていない」が経験ありの少年の方に多い。

ウ 受験勉強

怠学、不良、犯罪のすべてのケースにおいて、男子では「よくやっている」と「多少はやっている」が、女子では「多少はやっている」が、経験なしの少年の方に多い。また、男女とも、「ほとんどやっていない」が、経験ありの少年の方に多い（ただし、 $P<0.1$ で統計的有意差がすべてのケースに認められる高校生についての傾向）。

3) 逸脱行動の経験の有無別にみた授業の主観的理解度と試験の成績（表26～表28）

ア 授業の主観的理解度

$P<0.1$ で統計的有意差が認められるケースでは、概して、「よくわかる」もしくは「まあまあわかる」あるいはその両者が、怠学経験や不良経験、犯罪経験のない少年の方に多く、反対に、経験のある少年の方に、「あまりよくわからない」もしくは「ほとんどわからない」あるいはその両者が多くみられている。この傾向は、女子においてより明確である。

イ 試験の成績

同じく、 $P<0.05$ で統計的有意差が認められるケースでは、概して、「たいがいよくできている」もしくは「ときどきはよくできている」あるいはその両者が、怠学経験や不良経験、

表23 逸脱行動の経験の有無別にみたふだんの勉学の状況（一般少年 男女計）

		中 学 生						高 校 生					
		怠学経験		不良経験		犯罪経験		怠学経験		不良経験		犯罪経験	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
予 習 や 復 習	よくやっている	1.8	2.5	2.6	2.3	4.0	2.1	2.0	4.2	1.2	4.5	2.5	3.5
	多少はやっている	21.1	26.6	22.6	26.6	24.0	25.9	20.5	30.4	18.3	31.5	18.3	28.5
	あまりやっていない	31.2	38.3	32.3	38.7	24.0	38.9	25.2	36.4	30.9	33.0	25.0	33.8
	ほとんどやっていない	42.2	27.3	36.8	27.7	44.0	28.0	51.2	23.7	48.0	26.0	52.5	29.9
	どちらともいえない	3.7	5.3	5.8	4.8	4.0	5.2	1.2	5.3	1.6	5.0	1.7	4.2
	計	(109)	(527)	(155)	(481)	(75)	(561)	(254)	(434)	(246)	(442)	(120)	(568)
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検 定	***				***		***		***		***	
宿 題	よくやっている	10.1	24.5	14.8	24.3	20.0	22.3	7.1	23.7	10.6	21.5	10.0	19.2
	多少はやっている	36.7	50.5	33.6	52.8	36.0	49.7	26.1	43.8	28.5	42.2	21.7	40.6
	あまりやっていない	32.1	16.3	29.7	15.6	22.7	18.5	30.8	19.6	29.7	20.4	25.8	23.3
	ほとんどやっていない	19.3	6.6	20.7	5.0	21.3	7.1	30.4	6.9	26.0	9.8	35.8	11.3
	どちらともいえない	1.8	2.1	1.3	2.3	0.0	2.3	5.5	6.0	5.3	6.1	6.7	5.6
	計	(109)	(527)	(155)	(481)	(75)	(561)	(253)	(434)	(246)	(441)	(120)	(567)
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検 定	***		***		***		***		***		***	
受 験 勉 強	よくやっている	1.8	3.2	3.9	2.7	6.7	2.5	7.1	9.7	8.9	8.6	8.3	8.8
	多少はやっている	15.6	19.5	19.4	18.7	18.7	18.9	28.0	32.3	29.7	31.2	28.3	31.2
	あまりやっていない	27.5	30.0	23.9	31.4	21.3	30.7	24.4	30.0	22.4	31.0	20.0	29.6
	ほとんどやっていない	49.5	41.4	46.5	41.6	49.3	41.9	38.6	23.7	36.2	25.3	41.7	26.6
	どちらともいえない	5.5	5.9	6.5	5.6	4.0	6.1	2.0	4.4	2.9	3.9	1.7	3.9
	計	(109)	(527)	(155)	(481)	(75)	(561)	(254)	(434)	(246)	(442)	(120)	(568)
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検 定							***		**		**	

※ 表20の注1～3を参照。

表24 逸脱行動の経験の有無別にみたふだんの勉学の状況（一般少年 男）

		中 学 生						高 校 生					
		怠学経験		不良経験		犯罪経験		怠学経験		不良経験		犯罪経験	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
予 習 や 復 習	よくやっている	2.1	3.6	2.7	3.8	5.1	3.0	3.0	7.2	1.4	9.1	3.8	5.9
	多少はやっている	20.8	27.2	25.2	26.8	27.1	26.0	23.7	28.9	20.4	32.5	21.3	28.5
	あまりやっていない	20.8	41.7	32.4	41.8	22.0	42.3	27.4	33.7	32.7	29.2	22.5	33.9
	ほとんどやっていない	50.0	23.2	35.1	23.0	42.4	23.8	44.4	24.1	43.5	23.4	50.0	27.2
	どちらともいえない	6.3	4.4	4.5	4.7	3.4	4.9	1.5	6.0	2.0	5.8	2.5	4.5
	計	(48)	(276)	(111)	(213)	(59)	(265)	(135)	(166)	(147)	(154)	(80)	(221)
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検 定	***		***		**		***		***		***	
宿 題	よくやっている	10.4	32.3	19.8	33.8	23.7	30.2	10.5	24.1	11.6	24.2	13.8	19.6
	多少はやっている	25.0	43.1	33.3	44.1	35.6	41.5	23.9	34.3	27.2	32.0	20.0	33.2
	あまりやっていない	31.3	16.7	24.3	16.0	17.0	19.3	30.6	22.9	32.0	20.9	26.3	26.4
	ほとんどやっていない	31.3	6.9	21.6	4.7	23.7	7.6	31.3	8.4	25.2	12.4	35.0	12.7
	どちらともいえない	2.1	1.1	0.9	1.4	0.0	1.5	3.7	10.2	4.1	10.5	5.0	8.2
	計	(48)	(276)	(111)	(213)	(59)	(265)	(134)	(166)	(147)	(153)	(80)	(220)
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検 定	***		***		***		***		***		***	
受 験 勉 強	よくやっている	2.1	2.9	3.6	2.4	8.5	1.5	11.9	18.7	11.6	19.5	11.3	17.2
	多少はやっている	18.8	22.1	21.6	21.6	20.3	21.9	37.0	42.2	36.1	43.5	38.8	40.3
	あまりやっていない	18.8	27.2	21.6	28.2	18.6	27.6	23.0	17.5	20.4	19.5	16.3	21.3
	ほとんどやっていない	54.2	41.3	46.0	41.8	49.2	41.9	27.4	15.1	28.6	13.0	31.3	16.7
	どちらともいえない	6.3	6.5	7.2	6.1	3.4	7.2	0.7	6.6	3.4	4.6	2.5	4.5
	計	(48)	(276)	(111)	(213)	(59)	(265)	(135)	(166)	(147)	(154)	(80)	(221)
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	χ^2 検 定					**		***		***		*	

※ 表20の注1～3を参照。

表25 逸脱行動の経験の有無別にみたふだんの勉学の状況（一般少年 女）

		中 学 生						高 校 生					
		怠学経験		不良経験		犯罪経験		怠学経験		不良経験		犯罪経験	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
予 習 や 復 習	よくやっている	1.6	1.2	2.3	1.1	0.0	1.4	0.8	2.2	1.0	2.1	0.0	2.0
	多少はやっている	21.3	25.9	15.9	26.5	12.5	25.7	16.8	31.3	15.2	30.9	12.5	28.5
	あまりやっていない	39.3	34.7	31.8	36.2	31.3	35.8	22.7	38.1	28.3	35.1	30.0	33.7
	ほとんどやっていない	36.1	31.9	40.9	31.3	50.0	31.8	58.8	23.5	54.6	27.4	57.5	31.7
	どちらともいえない	1.6	6.4	9.1	4.9	6.3	5.4	0.8	4.9	1.0	4.5	0.0	4.0
	計	(61)	(251)	(44)	(268)	(16)	(296)	(119)	(268)	(99)	(288)	(40)	(347)
	χ^2 検 定	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
宿 題	よくやっている	9.8	15.9	2.3	16.8	6.3	15.2	3.4	23.5	9.1	20.1	2.5	19.0
	多少はやっている	45.9	58.6	34.1	59.7	37.5	57.1	28.6	49.6	30.3	47.6	25.0	45.2
	あまりやっていない	32.8	15.9	43.2	15.3	43.8	17.9	31.1	17.5	26.3	20.1	25.0	21.3
	ほとんどやっていない	9.8	6.4	18.2	5.2	12.5	6.8	29.4	6.0	27.3	8.3	37.5	10.4
	どちらともいえない	1.6	3.2	2.3	3.0	0.0	3.0	7.6	3.4	7.1	3.8	10.0	4.0
	計	(61)	(251)	(44)	(268)	(16)	(296)	(119)	(268)	(99)	(288)	(40)	(347)
	χ^2 検 定	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
受 験 勉 強	よくやっている	1.6	3.6	4.6	3.0	0.0	3.4	1.7	4.1	5.1	2.8	2.5	3.5
	多少はやっている	13.1	16.7	13.6	16.4	12.5	16.2	17.7	26.1	20.2	24.7	7.5	25.4
	あまりやっていない	34.4	33.1	29.6	34.0	31.3	33.5	26.1	37.7	25.3	37.2	27.5	34.9
	ほとんどやっていない	45.9	41.4	47.7	41.4	50.0	41.9	51.3	29.1	47.5	31.9	62.5	32.9
	どちらともいえない	4.9	5.2	4.6	5.2	6.3	5.1	3.4	3.0	2.0	3.5	0.0	3.5
	計	(61)	(251)	(44)	(268)	(16)	(296)	(119)	(268)	(99)	(288)	(40)	(347)
	χ^2 検 定	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

※ 表20の注1～3を参照。

表26 逸脱行動の経験の有無別にみた授業の主観的理解度と試験の結果（一般少年 男女計）

		中 学 生						高 校 生					
		怠学経験		不良経験		犯罪経験		怠学経験		不良経験		犯罪経験	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
授 業 の 理 解 度	よくわかる	3.7	15.4	13.6	13.3	12.0	13.6	11.0	13.6	11.0	13.6	11.7	12.9
	まあまあわかる	50.5	57.5	49.7	58.4	53.3	56.7	52.0	63.8	56.1	61.3	52.5	60.9
	あまりよくわからない	24.8	16.3	16.8	18.1	14.7	18.2	19.7	13.6	15.9	15.8	15.8	15.9
	ほとんどわからない	12.8	4.7	14.8	3.3	14.7	5.0	7.1	2.5	8.1	2.0	12.5	2.5
	どちらともいえない	8.3	6.1	5.2	6.9	5.3	6.6	10.2	6.5	8.9	7.2	7.5	7.9
	計	(109)	(527)	(155)	(481)	(75)	(561)	(254)	(434)	(246)	(442)	(120)	(568)
	χ^2 検 定	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
試 験 の 結 果	たいがいよくできている	5.6	7.6	5.9	7.7	5.4	7.5	5.9	11.1	6.9	10.4	3.3	10.4
	ときどきはよくできている	19.4	34.1	26.8	33.1	27.0	32.2	30.3	43.8	35.8	40.5	35.0	39.6
	あまりできていないことが多い	44.4	38.1	41.8	38.3	40.5	39.0	40.6	33.0	35.0	36.2	39.2	35.0
	たいがいはほとんどできていない	22.2	11.4	20.9	10.8	21.6	12.2	14.6	3.0	13.0	4.1	15.8	5.5
	どちらともいえない	8.3	8.8	4.6	10.0	5.4	9.1	8.7	9.2	9.4	8.8	6.7	9.5
	計	(108)	(525)	(153)	(480)	(74)	(559)	(254)	(434)	(246)	(442)	(120)	(568)
	χ^2 検 定	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

※ 表20の注1～3を参照。

表27 逸脱行動の経験の有無別にみた授業の主観的理解度と試験の結果（一般少年 男）

		中 学 生						高 校 生					
		怠学経験		不良経験		犯罪経験		怠学経験		不良経験		犯罪経験	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
授業 の 理 解 度	よくわかる	8.3	22.1	18.0	21.1	15.3	21.1	16.3	22.9	13.6	26.0	13.8	22.2
	まあまあわかる	52.1	60.5	55.9	61.0	55.9	60.0	58.5	56.6	60.5	54.6	53.8	58.8
	あまりよくわからない	18.8	11.6	12.6	12.7	15.3	12.1	14.1	12.1	13.6	12.3	12.5	13.1
	ほとんどわからない	14.6	3.6	10.8	2.4	10.2	4.2	6.7	3.0	7.5	2.0	11.3	2.3
	どちらともいえない	6.3	2.2	2.7	2.8	3.4	2.6	4.4	5.4	4.8	5.2	8.8	3.6
	計	(48) 100%	(276) 100%	(111) 100%	(213) 100%	(59) 100%	(265) 100%	(135) 100%	(166) 100%	(147) 100%	(154) 100%	(80) 100%	(221) 100%
	χ^2 検 定	***		**						**		***	
試 験 の 結 果	たいがいよくできている	10.4	11.3	8.2	12.7	6.8	12.2	7.4	18.7	6.8	20.1	3.8	17.2
	ときどきはよくできている	16.7	40.5	30.9	40.1	27.1	39.2	34.8	42.8	41.5	37.0	36.3	40.3
	あまりできていないことが多い	43.8	32.9	38.2	32.6	42.4	32.7	40.7	29.5	34.7	34.4	41.3	32.1
	たいがいほとんどできていない	27.1	9.9	19.1	9.0	18.6	11.0	12.6	2.4	11.6	2.6	12.5	5.0
	どちらともいえない	2.1	5.5	3.6	5.7	5.1	4.9	4.4	6.6	5.4	5.8	6.3	5.4
	計	(48) 100%	(274) 100%	(110) 100%	(212) 100%	(59) 100%	(263) 100%	(135) 100%	(166) 100%	(147) 100%	(154) 100%	(80) 100%	(221) 100%
	χ^2 検 定	***		**				***		***		***	

※ 表20の注1～3を参照。

表28 逸脱行動の経験の有無別にみた授業の主観的理解度と試験の結果（一般少年 女）

		中 学 生						高 校 生					
		怠学経験		不良経験		犯罪経験		怠学経験		不良経験		犯罪経験	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし
授業 の 理 解 度	よくわかる	0.0	8.0	2.3	7.1	0.0	6.8	5.0	7.8	7.1	6.9	7.5	6.9
	まあまあわかる	49.2	54.2	34.1	56.3	43.8	53.7	44.5	68.3	49.5	64.9	50.0	62.3
	あまりよくわからない	29.5	21.5	27.3	22.4	12.5	23.7	26.1	14.6	19.2	17.7	22.5	17.6
	ほとんどわからない	11.5	6.0	25.0	4.1	31.3	5.7	7.6	2.2	9.1	2.1	15.0	2.6
	どちらともいえない	9.8	10.4	11.4	10.1	12.5	10.1	16.8	7.1	15.2	8.3	5.0	10.7
	計	(61) 100%	(251) 100%	(44) 100%	(268) 100%	(16) 100%	(296) 100%	(119) 100%	(268) 100%	(99) 100%	(288) 100%	(40) 100%	(347) 100%
	χ^2 検 定	*		***		***		***		***		***	
試 験 の 結 果	たいがいよくできている	1.7	3.6	0.0	3.7	0.0	3.4	4.2	6.3	7.1	5.2	2.5	6.1
	ときどきはよくできている	21.7	27.1	16.3	27.6	26.7	26.0	25.2	44.4	27.3	42.4	32.5	39.2
	あまりできていないことが多い	45.0	43.8	51.2	42.9	33.3	44.6	40.3	35.1	35.4	37.2	35.0	36.9
	たいがいほとんどできていない	18.3	13.2	25.6	12.3	33.3	13.2	16.8	3.4	15.2	4.9	22.5	5.8
	どちらともいえない	13.3	12.4	7.0	13.4	6.7	12.8	13.5	10.8	15.2	10.4	7.5	12.1
	計	(60) 100%	(251) 100%	(43) 100%	(268) 100%	(15) 100%	(296) 100%	(119) 100%	(268) 100%	(99) 100%	(288) 100%	(40) 100%	(347) 100%
	χ^2 検 定			**				***		***		***	

※ 表20の注1～3を参照。

犯罪経験のない少年の方に多く、反対に、経験のある少年の方に、「あまりできていないことが多い」と「たいがいほとんどできていない」の両者もしくは後者が多くみられている。この傾向は、男子においてより明確である。

(5) 文化的目標と学校生活への適格的行動様式との関連

文化的目標と学校生活への適格的行動様式との関連性を、行動様式別の文化的目標の内面化者の割合からみたのが、表29～表34である。P<0.1で統計的に有意差が認められるケースに限って知見を要約してみると、以下のとおりである。

1) 適応困難な勉学状況への対応別にみた文化的目標の内面化者の割合(表29・表30)

ア 体調の悪いときの対応別の割合

「人の上に立つ」は、中学生の男女計と中学生の男子でのみ有意差が認められ、いずれにおいても、「がまんして学校へ行くようにしている」者や「(なんとかして)学校へ行くようにしているが、ときには休む」者に内面化者が多く、「学校を休むことが多い」者に少ない。

「金持ちになる」は、中学生の男子においてのみ有意差が認められるが、この場合でも、「それほど体調を悪くしたことがないので、よくわからない」を除けば、ほとんど差がみられない。

「大学進学」は、中学生の男女計と高校生のすべてのケースで有意差が認められ、いずれの場合も、内面化者は、「がまんして学校へ行くようにしている」者に最も多く、「学校を休むことが多い」者に最も少ないという傾向をみせている。

イ 宿題がたくさんときの対応別の割合

「人の上に立つ」は、中学生の男女計と男子、高校生の男女計に有意差が認められる。内面化者は、中学生では、「やれるだけやっ払いこうと頑張る」者と「やらないですませてしまうことが多い」者に多く、「できるだけ頑張るが、あまりやっ払いかないときもある」者に少ないという傾向にあるが、高校生の場合は、「やらないですませてしまうことが多い」者に多いという傾向を見せている。

「金持ちになる」は、すべてのケースで有意差が認められない。

「大学進学」は、中学生のすべてのケースと高校生の男子で有意差が認められ、いずれにおいても、内面化者は、「やれるだけやっ払いこうと頑張る」者に最も多く、「やらないですませてしまうことが多い」者に最も少ない傾向にある。

2) ふだんの勉学の状況別にみた文化的目標の内面化者の割合(表31・表32)

ア 予習や復習の状況別にみた割合

「人の上に立つ」は、中学生の男女計と高校生の男女計および男子で有意差がみられ、いずれにおいても、内面化者は、「よくやっている」者に最も多くみられている。しかし、高校生においては、「ほとんどやっ払いない」者における割合も、相対的にみて小さいとは

表29 適応困難な勉強状況への対応別にみた文化的目標の内面化者の割合（一般少年 中学生 %）

文 化 的 目 標	体 調 の 悪 い と き の 対 応					宿 題 が た く さ ん の と き の 対 応					
	がまんして学校へ行 くようにしている	休 む 学校へ行くようにし ているが、ときには	い 学校を休むことが多 い	それほど体調を悪く したことがないので よくわからない	χ^2 検 定	やれるだけやってい こうと頑張る	いときもある あまりやっていかな できるだけ頑張るが、 あまりやっていかな	やらないですませて しまうことが多い	そんなにたくさん出 されたことがないの で、よくわからない	χ^2 検 定	
計	サンプル数	232	222	71	110		181	309	71	73	
	人	232	222	71	110		181	309	71	73	
		227	216	69	106		175	304	69	69	
	人の上に立つ 金持ちになる	28.5	26.6	16.9	15.5	**	33.7	18.5	32.4	17.8	
	大学進学	50.9	49.6	46.5	37.3		49.7	45.3	49.3	50.7	
		70.0	63.9	55.1	55.7	**	76.0	62.5	46.4	56.5	***
男	サンプル数	134	109	27	54		109	138	40	36	
	人	134	109	27	54		109	138	40	36	
		132	107	25	52		107	137	38	33	
	人の上に立つ 金持ちになる	39.6	38.5	18.5	20.4	**	44.0	27.5	42.5	22.2	
	大学進学	59.0	55.1	59.3	31.5	***	56.9	50.7	50.0	55.6	
		86.4	81.3	76.0	71.2		90.7	79.6	55.3	87.9	***
女	サンプル数	98	113	44	56		72	171	31	37	
	人	98	113	44	56		72	171	31	37	
		95	109	44	54		68	167	31	36	
	人の上に立つ 金持ちになる	13.3	15.0	15.9	10.7		18.1	11.1	19.4	13.5	
	大学進学	39.8	44.3	38.6	42.9		38.9	40.9	48.4	46.0	
		47.4	46.8	43.2	40.7		52.9	48.5	35.5	27.8	**

1. 文化的目標とサンプル数については、表1を参照。
2. χ^2 検定 *** : $P < 0.01$ ** : $P < 0.05$ * : $P < 0.1$

表30 適応困難な勉強状況への対応別にみた文化的目標の内面化者の割合（一般少年 高校生 %）

文 化 的 目 標		体 調 の 悪 い と き の 対 応					宿 題 が た く さ ん の と き の 対 応				
		がまんして学校へ行 くようにしている	休 む 学校へ行くようにし ているが、ときには	い 学校を休むことが多 い	それほど体調を悪く したことがないので よくわからない	χ^2 検 定	やれるだけやってい こうと頑張る	いときもある あまりやっていかな いときもある	できるだけ頑張るが、 ししまうことが多い	やらないですませて されたことがないの で、よくわからない	χ^2 検 定
計	サンプル数	261	240	113	71		184	346	70	85	
	人	261	238	113	71		184	346	68	85	
		259	225	109	69		179	334	66	82	
	人の上に立つ 金持ちになる	26.8	21.3	27.4	15.5		23.9	21.7	37.1	22.4	*
	大学進学	44.4	44.1	51.3	36.6		44.6	45.1	54.4	35.3	
		76.1	62.7	56.9	65.2	***	68.7	66.2	60.6	73.2	
男	サンプル数	115	97	56	31		66	150	41	42	
	人	115	97	56	31		66	150	41	42	
		113	94	54	31		64	146	39	42	
	人の上に立つ 金持ちになる	42.6	30.9	42.9	29.0		40.9	34.0	51.2	33.3	
	大学進学	41.7	49.5	57.1	38.7		40.9	49.3	58.5	35.7	
		93.8	85.1	74.1	87.1	***	90.6	88.4	71.8	88.1	**
女	サンプル数	146	143	57	40		118	196	29	43	
	人	146	141	57	40		118	196	27	43	
		146	131	55	38		115	188	27	40	
	人の上に立つ 金持ちになる	14.4	14.7	12.3	5.0		14.4	12.2	17.2	11.6	
	大学進学	46.6	40.4	45.6	35.0		46.6	41.8	48.2	34.9	
		62.3	46.6	40.0	47.4	***	56.5	48.9	44.4	57.5	

※ 表29の注1～2を参照。

いえない。

「金持ちになる」は、中学生の男子と高校生の女子を除いて有意差が認められ、いずれの場合も、内面化者は、「よくやっている」者に最も多く、ついで「ほとんどやっていない」者に多いという傾向をみせている。

「大学進学」は、中学生の女子を除いてすべてのケースに有意差が認められる。内面化者は、中学生の場合は、「よくやっている」者に最も多く、「ほとんどやっていない」者に最も少ないという傾向にあるが、高校生の場合は、「よくやっている」の実数の少ない女子を除いてみれば、「よくやっている」と「多少はやっている」に多く、「あまりやっていない」と「ほとんどやっていない」者に少ないという傾向が指摘される。

イ 宿題の状況別にみた割合

「人の上に立つ」は、中学生の男女計および男子と高校生の男女計とで有意差が認められ、いずれにおいても、内面化者は、「よくやっている」者と「ほとんどやっていない」者ともに多く、「多少はやっている」者と「あまりやっていない」者ともに少ないという傾向がみられている。

「金持ちになる」は、中学生の男子と高校生の男女計とでのみ有意差が認められ、いずれの場合も、内面化者は、「よくやっている」者に最も多く、ついで、「あまりやっていない」ないし「ほとんどやっていない」者に多い。「多少はやっている」者において最も少ない傾向がある。

「大学進学」は、中・高生とも女子を除いて有意差が認められ、内面化者は、概して、「よくやっている」者に最も多く、「ほとんどやっていない」者に最も少ないという傾向が指摘されるが、高校生の男子では、「多少はやっている」者において最も多いという傾向が認められる。

ウ 受験勉強の状況別にみた割合

「人の上に立つ」は、高校生の男女計および男子でのみ有意差が認められ、いずれにおいても、内面化者は、「よくやっている」者に最も多く、「あまりやっていない」ないし「ほとんどやっていない」者に最も少ない傾向にある。

「金持ちになる」は、高校生の男女計でのみ有意差が認められ、内面化者は、「よくやっている」者と「多少はやっている」者ともに多く、「あまりやっていない」者と「ほとんどやっていない」者ともに少ない。

「大学進学」は、中学生の男女計と高校生のすべてで有意差が認められ、内面化者は、概して、「よくやっている」者に最も多く、「ほとんどやっていない」者に最も少ないという傾向が認められるが、高校生の男子においては、「よくやっている」、「多少はやっている」

表31 ふだんの勉学の状況別にみた文化的目標の内面化者の割合（一般少年 中学生 %）

文 化 的 目 標	予 習 や 復 習				宿 題				受 験				χ^2 検 定
	よくやっている	多少はやっている	あまりやっていない	ほとんどやっていない	どちらともいえない	χ^2 検 定	よくやっている	多少はやっている	あまりやっていない	ほとんどやっていない	どちらともいえない	χ^2 検 定	
計	15 15 15	163 163 159	236 236 232	190 190 184	32 32 29		140 140 136	306 306 300	121 121 117	56 56 54	13 13 12		
	46.7	30.7	22.9	19.5	18.8	**	35.0	19.6	19.0	33.9	23.1	***	
	86.7	44.2	45.8	49.5	46.9	**	52.9	44.4	43.8	55.4	61.5		
	86.7	71.1	66.0	53.3	62.1	***	79.4	62.3	56.4	48.2	66.7	***	***
男	11 11 11	85 85 84	125 125 123	88 88 86	15 15 12		94 94 93	131 131 127	61 61 60	34 34 32	4 4 4		
	45.5	42.4	32.0	29.6	26.7		44.7	29.0	21.3	44.1	75.0	***	
	81.8	52.9	50.4	53.4	53.3		60.6	45.8	55.7	50.0	100.0	*	
	100.0	86.9	87.0	65.1	83.3	***	91.4	85.0	70.0	56.3	100.0	***	
女	4 4 4	78 78 75	111 111 109	102 102 98	17 17 17		46 46 43	175 175 173	60 60 57	22 22 22	9 9 8		
	50.0	18.0	12.6	10.8	11.8		15.2	12.6	16.7	18.2	0.0		
	100.0	34.6	40.5	46.1	41.2	*	37.0	43.4	31.7	63.6	44.4		
	50.0	53.3	42.2	42.9	47.1		53.5	45.7	42.1	36.4	50.0		

※ 表29の注1～2を参照。

表32 ふだんの勉学の状況別にみた文化的目標の内面化者の割合（一般少年 高校生 %）

文 化 的 目 標	予 習 や 復 習			宿 題			受 験					強 勉 励	χ ² 検 定					
	よくやっている	多少はやっている	あまりやっていない	ほとんどやっていない	どちらともいえない	χ ² 検 定	よくやっている	多少はやっている	あまりやっていない	ほとんどやっていない	どちらともいえない							
サンプル数 人	23 23 21	184 184 182	221 220 217	233 232 218	26 26 24	χ ² 検 定	121 121 114	255 255 250	163 162 157	107 106 101	40 40 39	192 192 187	201 199 188	24 24 24	χ ² 検 定			
	47.8	22.3	19.0	27.5	23.1		32.2	21.2	19.0	28.0	25.0	50.0	31.9	17.7		13.9	20.8	
	60.9	36.4	44.1	49.1	53.9		49.6	37.7	48.2	52.8	40.0	53.3	51.9	39.1		40.2	41.7	**
計	81.0	81.9	61.3	60.6	58.3	***	77.2	66.0	66.9	58.4	69.2	90.3	63.6	37.8	62.5	***		
男	16 16 15	80 80 80	92 92 90	100 100 95	12 12 12	χ ² 検 定	54 54 52	88 88 88	79 79 76	56 56 53	22 22 22	119 119 117	60 60 60	62 62 59	12 12 12	χ ² 検 定		
	62.5	32.5	30.4	44.0	41.7		46.3	37.5	31.7	39.3	36.4	59.6	42.0	23.3	27.4		33.3	***
	62.5	27.5	51.1	54.0	58.3		48.2	38.6	53.2	53.6	36.4	51.1	51.3	38.3	45.2		33.3	***
大学進学	93.3	95.0	87.8	77.9	83.3	**	90.4	95.5	84.2	69.8	90.9	96.6	95.0	52.5	83.3	***		
サンプル数 人	7 7 6	104 104 102	129 128 127	133 132 123	14 14 12	χ ² 検 定	67 67 62	167 167 162	84 83 81	51 50 48	18 18 17	91 91 90	132 132 127	139 137 129	12 12 12	χ ² 検 定		
	14.3	14.4	10.9	15.0	7.1		20.9	12.6	7.1	15.7	11.1	15.4	18.7	15.2	7.9		8.3	50.0
	57.1	43.3	39.1	45.5	50.0		50.8	37.1	43.4	52.0	44.4	61.5	52.8	39.4	38.0		50.0	
女	50.0	71.6	42.5	47.2	33.3	***	66.1	50.0	50.6	45.8	41.2	82.2	48.8	31.0	41.7	***		

※ 表29の注1～2を参照。

「あまりやっていない」の三者間に差はみられない。

3) 授業の主観的理解度と試験の成績別にみた文化的目標の内面化者の割合(表33・表34)

ア 授業の主観的理解度別にみた割合

「人の上に立つ」は、中学生の男女計と高校生の男女計および男子で有意差が認められ、内面化者は、いずれにおいても、「よくわかる」者に最も多いという傾向を示しているが、高校生の男子では、「ほとんどわからない」者においても相対的に多くみられている。

「金持ちになる」は、中学生の男女で有意差が認められ、内面化者は、男子では「よくわかる」者と「あまりわからない」ないし「ほとんどわからない」者にと、女子では「ほとんどわからない」者に多いという傾向がみられている。

「大学進学」は、中・高生のすべてのケースで有意差が認められ、内面化者は、いずれの場合も、「よくわかる」者に最も多く、概して、理解度が低下するにつれて少なくなる傾向にあるが、中学生の女子では、「ほとんどわからない」者においても相対的に多くみられている。

イ 試験の結果別にみた割合

「人の上に立つ」は、中学生の男子と高校生の女子を除いて有意差が認められ、内面化者は、いずれにおいても、「たいがいよくできている」者に最も多くみられているが、高校生の男子では、「たいがいほとんどできていない」者においても相対的に多い傾向にある。

「金持ちになる」は、高校生の男女計と女子でのみ有意差が認められ、内面化者は、いずれにおいても、「たいがいよくできている」者と「たいがいほとんどできていない」者ともに多くみられている。

「大学進学」は、中・高生のすべてのケースで有意差が認められ、内面化者は、すべてにおいて、「たいがいよくできている」者において最も多く、以下、試験の結果が悪くなるにつれて内面化者も少なくなるという傾向を示している。

4 考察と結論

(1) 結果の要約

I 文化的目標の内面化の状況と逸脱行動の経験との関連

- 1 文化的目標の内面化者の多寡を一般少年と非行少年とで比較してみると、つぎのとおりである。「人の上に立つ」の内面化者は、女子ではほとんど差がみられないが、男子では、一般少年に多い。「金持ちになる」のそれは、概して差がみられない。他方、「大学進学」の内面化者は、総じて一般少年に多く、非行少年との差はきわめて大きい(表1)。

表33 授業の主観的理解度と試験の結果別にみた文化的目標の内面化者の割合（一般少年 中学生 %）

文 化 的 目 標		授 業 の 理 解 度						試 験 の 結 果					
		よくわかる	まあまあわかる	い あまりよくわからない	ほとんどわからない	どちらともいえない	χ^2 検定	いる たいがいよくできて いる	ときどきはよくでき ている	あまりできていない ことが多い	たいがいはほとんど できていない	どちらともいえない	χ^2 検定
計	サンプル数	85	358	113	39	41		46	200	248	84	55	
	人	85	358	113	39	41		46	200	248	84	55	
		85	353	108	36	37		46	197	240	82	51	
	人の上に立つ	36.5	24.3	18.6	23.1	14.6	**	41.3	27.5	21.4	21.4	14.6	**
	金持ちになる	58.8	42.5	50.4	61.5	46.3	**	60.9	49.5	43.6	50.0	41.8	**
	大学進学	90.6	68.6	42.6	30.6	51.4	***	91.3	79.7	53.8	41.5	58.8	***
男	サンプル数	65	192	41	17	9		36	119	111	40	16	
	人	65	192	41	17	9		36	119	111	40	16	
		65	188	40	16	7		36	117	108	39	14	
	人の上に立つ	43.1	32.3	29.3	35.3	33.3		41.7	32.8	31.5	37.5	37.5	
	金持ちになる	64.6	47.9	63.4	58.8	22.2	**	61.1	53.8	48.7	57.5	50.0	
	大学進学	96.9	84.6	62.5	37.5	57.1	***	97.2	91.5	72.2	56.4	92.9	***
女	サンプル数	20	166	72	22	32		10	81	137	44	39	
	人	20	166	72	22	32		10	81	137	44	39	
		20	165	68	20	30		10	80	132	43	37	
	人の上に立つ	15.0	15.1	12.5	13.6	9.4		40.0	19.8	13.1	6.8	5.1	**
	金持ちになる	40.0	36.1	43.1	63.6	53.1	*	60.0	43.2	39.4	43.2	38.5	
	大学進学	70.0	50.3	30.9	25.0	50.0	***	70.0	62.5	38.6	27.9	46.0	***

※ 表29の注1～2を参照。

表34 授業の主観的理解度と試験の結果別にみた文化的目標の内面化者の割合（一般少年 高校生 %）

文 化 的 目 標		授 業 の 理 解 度						試 験 の 結 果					
		よくわかる	まあまあわかる	い あまりよくわからない	ほとんどわからない	どちらともいえない	χ^2 検定	いる たいがいよくできて いる	ときどきはよくでき ている	あまりできていない ことが多い	たいがいはほとんど できていない	どちらともいえない	χ^2 検定
計	サンプル数	87	408	109	29	54		63	267	246	50	61	
	人	87	407	108	29	54		63	267	244	50	61	
		82	399	100	28	53		61	255	237	47	62	
	人の上に立つ	42.5	23.0	14.7	20.7	20.4	***	49.2	24.0	18.7	20.0	21.3	***
	金持ちになる	49.4	44.0	40.7	51.7	46.3		57.1	45.3	37.7	52.0	50.8	**
	大学進学	92.7	68.4	56.0	42.9	52.8	***	93.4	76.1	57.0	42.6	62.9	***
男	サンプル数	60	172	39	14	15		41	118	104	21	16	
	人	60	172	39	14	15		41	118	104	21	16	
		59	168	36	14	15		40	115	101	19	17	
	人の上に立つ	56.7	33.1	23.1	42.9	46.7	***	63.4	33.9	29.8	42.9	43.8	***
	金持ちになる	45.0	45.4	48.7	57.1	53.3		53.7	47.5	40.4	57.1	50.0	
	大学進学	98.3	89.9	80.6	28.6	73.3	***	97.5	94.8	79.2	63.2	76.5	***
女	サンプル数	27	236	70	15	39		22	149	142	29	45	
	人	27	235	69	15	39		22	149	140	29	45	
		23	231	64	14	38		21	140	136	28	45	
	人の上に立つ	11.1	15.7	10.0	0.0	10.3		22.7	16.1	10.6	3.5	13.3	
	金持ちになる	59.3	43.0	36.2	46.7	43.6		63.6	43.6	35.7	48.3	51.1	*
	大学進学	78.3	52.8	42.2	57.1	44.7	**	85.7	60.7	40.4	28.6	57.8	***

※ 表29の注1～2を参照。

- 2 以上を非行少年のなかでみてみると、「人の上に立つ」と「金持ちになる」の内面化者は、薬物非行や粗暴犯非行の少年と前歴ありの少年に多く、「大学進学」のそれは、初発型非行の少年と前歴なしの少年に多い（表2）。
- 3 休日に勉強する少年や怠学行動の経験者の多寡を一般少年と非行少年とで比較してみると、前者は一般少年に、後者は概して非行少年に多い（表3・表4）。
- 4 以上を非行少年のなかでみてみると、薬物非行や粗暴犯非行の少年とか前歴ありの少年に休日に勉強する者がより少なく、また、怠学行動の経験者がより多い（表5・表6）。
- 5 一般少年のなかで、逸脱行動の経験の有無別に文化的目標の内面化者の多寡をみてみると、概して、「人の上に立つ」と「金持ちになる」は逸脱行動の経験者に、「大学進学」は未経験者に内面化者が多い（表7。なお、この傾向は、高校生より中学生において明確である）。

II 自己イメージと逸脱行動の経験との関連

- 1 現在の自己についての本人自身のイメージを、教師の評価についての認識、親の評価についての認識および自己自身の評価をとおして、一般少年と非行少年とで比較してみると、一般少年に肯定的イメージをもつ者が多く、非行少年に否定的イメージをもつ者が多い（表8）。
- 2 将来の自己についての本人自身のイメージを、将来の幸福や自己実現の可能性と出世のみこみをとおして、同様にみると一般少年に肯定的イメージをもつ者が多く、非行少年に否定的イメージをもつ者が多い（表9）。
- 3 以上を非行少年のなかでみてみると、概して、現在および将来について肯定的イメージをもつ者は初発型非行の少年に多く、反対に、否定的イメージをもつ者は薬物非行や粗暴犯非行の少年に多い。また、自己実現の可能性や出世のみこみについては差がみられないが、その他の点では、前歴なしの少年に肯定的イメージをもつ者が多く、反対に、前歴ありの少年に否定的イメージをもつ者が多い（表10）。
- 4 また、一般少年において、逸脱行動の経験の有無別の傾向をみると、現在の自己については、逸脱行動の経験のない少年に肯定的イメージをもつ者が多く、反対に、逸脱行動の経験者に否定的イメージをもつ者が多い。しかし、将来の自己についてのイメージと逸脱行動の経験の有無との関連は、一般的傾向として認められない（表11～表16）。

III 文化的目標の内面化と自己イメージとの関連

- 1 現在の自己についてのイメージとの関連でいえば、「人の上に立つ」と「金持ちになる」は、一般少年と非行少年の両者において、概して、明確な関連性はほとんど認められない。両者の関連性がみられるケースでは、概して、肯定的イメージをもつ者の方に内面化者が多い。以上に対して、「大学進学」は、非行少年において明確な関連性を有しており、明

らかに、肯定的イメージをもつ者の方に内面化者が多い。一般少年においても、それほど顕著ではないがおおむね同様の傾向にある（表17～表19）。

- 2 将来の自己についてのイメージとの関連でいえば、「人の上に立つ」は、一般少年と非行少年の両者において、肯定的イメージをもつ者の方に内面化者が多い。しかし、「金持ちになる」は、一般少年では、属性別の個々のケースのいくつかにおいて肯定的イメージをもつ者の方に内面化者が多い傾向にあるが、非行少年では、明確な関連性は認められない。「大学進学」は、非行少年では、明らかに肯定的イメージをもつ者の方に内面化者が多いという傾向にある。一般少年においても、それほど顕著ではないがほぼ同様である（表17～表19）。

IV 学校生活への適格的行動様式と逸脱行動の経験の有無との関連：一般少年のみ

- 1 高校生を中心にみると、逸脱行動の経験のない少年に、適応困難な勉学状況に前向きに対応しようとする態度を示す者や、ふだんの勉学の状況が良好な者が多く、逸脱行動の経験者にそうでない者が多い（表20～表25）。
- 2 中・高生を通じた傾向として、逸脱行動の経験のない少年に授業がわかる者や試験の成績が良い者が多く、逸脱行動の経験者に授業がわからなかったり、試験の成績の良くない者が多い（表26～表28）。

V 文化的目標と学校生活への適格的行動様式との関連：一般少年のみ

- 1 体調の悪いときの対応別にみると、「人の上に立つ」と「大学進学」については、「学校へ行くようにしている」者に内面化者が多く、「学校を休むことが多い」者に内面化者が少ない。「金持ちになる」については、ほとんど差がない（表29・表30）。
- 2 宿題がたくさんのときの対応別では、「人の上に立つ」については「やれるだけやっ払いこうと頑張る」者や「やらないですませてしまうことが多い」者に内面化者が多いが、「大学進学」については、「やれるだけやっ払いこうと頑張る」者に内面化者が最も多く、「やらないですませてしまうことが多い」者に最も少ない。「金持ちになる」については、ほとんど差がない（表29・表30）。
- 3 ふだんの勉学の状況別では、概して、予習や復習、宿題を「よくやっている」者に内面化者が多い点で3つの文化的目標は共通しているが、「人の上に立つ」と「金持ちになる」の場合は、「ほとんどやっていない」者にも内面化者が多いのに対して、「大学進学」の場合は、「ほとんどやっていない」者において内面化者が最も少ないという違いもある。しかし、受験勉強の状況別では、概して、文化的目標の違いを問わず、「やっている」者に内面化者が多く、「やっていない」者に内面化者が少ない傾向が認められる（表31・表32）。
- 4 また、「人の上に立つ」と「金持ちになる」については、概して、授業がわかる者や試

験の成績の良い者とともに、授業がわからない者や試験の成績の良くない者においても、内面化者が多い。しかし、「大学進学」の場合は、内面化者は、概して、授業の理解度が低下したり、試験の成績が悪くなるにつれて少なくなるという傾向にある（表33・表34）。

(2) 考察と結論

以上の結果とその要約から、冒頭の仮説は、以下のように実証ないし修正される。

I 文化的目標の内面化と逸脱行動との関連に関して（前項の「結果の要約」I-1・2・5から）

- 1 金銭的成功目標の内面化は、逸脱行動を一般的に促進しやすい。また、金銭的成功目標の内面化は、非行少年つまり警察に検挙・補導されるような非行経験を有する少年の非行化をいっそう促進しやすい。しかし、非非行少年の非行少年化を促進しているとは、必ずしもいえない。
- 2 地位的成功目標の内面化は、逸脱行動を一般的に促進したり、非行少年の非行化をいっそう促進しやすい。他方、（この種の内面化が相対的に顕著な男子に限ってみれば、）地位的成功目標の内面化は、非非行少年の非行少年化を抑止する機能を有している。
- 3 大学進学目標の内面化は、逸脱行動を一般的に抑止するだけでなく、非非行少年の非行少年化を抑止したり、非行少年のいっそうの非行化を抑止する。換言すれば、大学進学目標の内面化の欠如は、逸脱行動を一般的に促進したり、非非行少年の非行少年化や非行少年のいっそうの非行化を促進する。

II 自己観念と逸脱行動との関連に関して（「結果の要約」II-1～4から）

- 1 現在の自己についての重要な他者（教師や親）による評価や自己自身による評価に関する肯定的イメージは、逸脱行動を一般的に抑止したり、非非行少年の非行少年化や非行少年のいっそうの非行化を抑止する。反対に、否定的イメージは、逸脱行動を一般的に促進したり、非非行少年の非行少年化や非行少年のいっそうの非行化を促進する。
- 2 将来の幸福や自己実現の可能性、出世のみこみなど自己の将来に関する肯定的イメージは、非非行少年の非行少年化や非行少年のいっそうの非行化を抑止し、反対に、否定的イメージは、非非行少年の非行少年化や非行少年のいっそうの非行化を促進する。

III 文化的目標の内面化と自己観念との関連に関して（「結果の要約」III-1・2から）

- 1 大学進学目標の内面化は、現在および将来の自己についてのイメージと相関しており、内面化が十分な場合に肯定的イメージと、内面化が不十分な場合に否定的イメージと、したがってまた逸脱親和的イメージと結合しやすい。
- 2 地位的成功目標の内面化は、将来の自己についてのイメージと相関しており、内面化が十分な場合に肯定的イメージと、内面化が不十分な場合に否定的イメージと結合しやすい。したがって、地位的成功目標の内面化が十分もしくは過度の場合の逸脱促進機能は、将来

の自己についての肯定的イメージがもつ逸脱抑止機能によって中和されうる。なお、金銭的成功目標に関しては、現在および将来の自己についてのイメージのいずれとの関連も、明確には認めえない。

IV 学校生活への適格的行動様式と逸脱行動との関連に関して（「結果の要約」IV-1・2から）

- 1 制度化された学業生活への適合——勤勉な学業行動と良好な勉学能力——は、逸脱行動を抑止し、制度化された学業生活への不適合——学業行動の軽視ないし否定と不良な勉学能力——は、逸脱行動を促進する。「結果の要約」I-2・3・4もこの点を実証する。

V 文化的目標と学校生活への適格的行動様式との関連に関して（「結果の要約」V-1～4から）

- 1 大学進学目標の内面化は、制度化された学業生活への良好な影響力を有する。
- 2 地位的成功目標と金銭的成功目標の内面化も、また、制度化された学業生活への良好な影響力を有するが、しかし、これらの文化的目標の内面化は、他方で、学業生活の不良な状況——授業がわからない、試験の成績が良くないなど——とも結合する。

以上から、「文化的目標の分化的機能」という本稿のテーマに関して、つぎのような結論を導くことができる。第1に、同じく文化的目標といっても、逸脱行動との関係ではその価値実体に応じて異なって機能する。すなわち、多くの場合、金銭的成功目標は逸脱促進的に機能し、大学進学目標は逸脱抑止的に機能する。地位的成功目標は逸脱促進的にも逸脱抑止的にも機能しうる。

第2に、文化的目標と自己観念との関係もその価値実体に応じて多様である。大学進学目標の内面化は、現在および将来の自己についての肯定的イメージと連関するが、地位的成功目標の内面化は、将来の自己についての肯定的イメージとのみ連関することが多い。金銭的成功目標は、いずれとも連関しない。ここから、文化的目標は、自己観念と結合することによっても、逸脱行動に分化的に機能するといった仮説が、新たに提起される。より具体的には、大学進学目標の逸脱抑止機能は、現在および将来の自己についての肯定的イメージと結びつくことによっていっそう強化されるのに対して、地位的成功目標の逸脱促進機能は、将来の自己についての肯定的イメージとの結合によって中和化されるにとどまる、といった仮説である。

第3に、文化的目標の内面化は、制度化された学業生活——学業行動と勉学能力——とも分化的に連関する。すなわち、大学進学目標の内面化は、勤勉な学業行動と良好な勉学能力（＝制度的手段の遵守とその効果の増進）を結果することが多いのに対して、地位的成功目標と金銭的成功目標は、一方でこれと同様の結果をもたらすとともに、他方で、反対に、学業行動の軽視ないし否定と不良な勉学能力（＝制度的手段の軽視ないし否定とその効果の低減）

をもたらす傾向にある。ここから、文化的目標は、中・高生世代における最も基本的な制度的手段であるところの学業行動および勉学能力と結合することによっても、逸脱行動に分化的に機能するといった、第2の新たな仮説が提起される。より具体的には、大学進学目標の内面化は、勤勉な学業行動や良好な勉学能力と結合することによって逸脱抑止的に機能するのに対して、地位的、金銭的成功目標は、学業行動の軽視ないし否定や不良な勉学能力と結合することによって逸脱促進的に機能する、といった仮説である。

したがって、これらの仮説の検証がつぎの課題となるが、この点についての多面的な検討は別の機会にゆずるとして、本稿では、大学進学目標の逸脱抑止機能に関して、さらにつぎの2点について考察を進め、学歴アノミーとよぶことができるような、大学進学目標を基軸とする中・高生世代の状況を明らかにしておきたい。その第1は、大学進学目標の逸脱抑止機能は、大学進学目標の内面化を当為化ないし義務化するような外的圧力によって影響を受けるかどうか、という点である。その第2は、大学進学目標の逸脱抑止機能は、大学進学目標の達成の現実の可能性によって、つまり受験競争において有利な位置におかれているか、それとも不利な位置におかれているかによって影響を受けるかどうか、という点である。これらの点について、大学進学がより現実の問題となっている一般高校生を対象にみても、表35と表36である。

表35は、親が大学までの進学を自分に対して期待していると本人がみているかどうかという観点から、大学進学目標の内面化に向けての外的圧力、本人における大学進学目標の内面化の有無、および逸脱行動の経験の有無の三者間の関連を男女別にみたものである。表35によれば、必ずしもすべてにおいて統計的有意差が認められるわけではないが、本人が大学進学目標を内面化していないにもかかわらず、親がこのような期待を有しているときに、逸脱行動は、怠学行動、不良行動、犯罪行動の別を問わず、また男女を問わず促進されやすい、ということが示唆される。この点は、親が本人に対し大学までの進学を期待しているという認知をもち、かつ、本人自身も大学進学目標を内面化しているケースと比較してみれば、きわめて明確である。なお、上記の三者間の関連をより広い観点からみるために、大学進学をだれにとっても当然なものとみるような雰囲気、本人の帰属する学校にあるかどうかという点からの考察も試みたが、今回の調査ではそれに必要な十分なサンプルを得ることができなかった。

表36は、本人が現に帰属している高校の大学合格者率をとおして、大学進学目標の現実の達成可能性——制度的機会としての制度的手段の目標達成能力——と本人における大学進学目標の内面化の有無、および逸脱行動の経験の有無の三者間の関連を男女別にみたものである。表36によれば、男女で異なった傾向がみられ、男子においては、本人が大学進学目標を内面化している場合には、帰属学校の大学合格者率が低い場合に、すなわち制度的手段の効

表35 親による大学進学への期待の有無別—本人の大学進学希望の有無別にみた逸脱行動の経験の有無（一般少年 高校生）

逸脱行動の経験の有無		〈 親 に よ る 大 学 進 学 の 期 待 〉			
		あ り		な し	
		〈本人の大学進学希望〉		〈本人の大学進学希望〉	
		あ り	な し	あ り	な し
男	怠学行動 経験あり	92人 42.8%	13人 61.9%	3人 50.0%	2人 33.3%
	なし	123 57.2	8 38.1	3 50.0	4 66.7
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.093) 0.361 (-)			
	不良行動 経験あり	95 44.2	18 85.7	4 66.7	3 50.0
	なし	120 55.8	3 14.3	2 33.3	3 50.0
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.000) 0.003 (-)			
子	犯罪行動 経験あり	49 22.8	9 42.9	3 50.0	2 33.3
	なし	166 77.2	12 57.1	3 50.0	4 66.7
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.041) 0.099 (-)			
女	怠学行動 経験あり	37 26.8	9 50.0	5 26.3	36 31.9
	なし	101 73.2	9 50.0	14 73.7	77 68.1
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.042) 0.223 (0.629)			
	不良行動 経験あり	34 24.6	7 38.9	7 36.8	24 21.2
	なし	104 75.4	11 61.1	12 63.2	89 78.8
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.196) 0.247 (0.138)			
子	犯罪行動 経験あり	8 5.8	4 22.2	2 10.5	11 9.7
	なし	130 94.2	14 77.8	17 89.5	102 90.3
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.014) 0.119 (0.915)			

1. 逸脱行動の経験の有無については、表7を参照。
2. 親による大学進学への期待なしは、「短大に進学して欲しい」、「専門学校に進学して欲しい」、「就職して欲しい」の合計。なお、期待あり—なしの区分は、本人の認知に基づく。
3. χ^2 検定の（ ）内の数値は、〈親による大学進学への期待〉のあり・なしのそれぞれにおける2セル間での検定値。また、（ ）なしの数値は、4つのセル間での検定値。

果をそれほど期待できない場合に、逸脱行動が、怠学行動、不良行動、犯罪行動の別なく、促進されやすいことが示唆される（本人が同じく大学進学目標を内面化していて、かつ帰属学校の大学合格者率が高いケースと比較した場合の傾向。この両者間に限ると、Prob 値は、怠学行動0.216、不良行動0.010、犯罪行動0.026となる）。他方、女子では、これと反対の傾向が示唆される。すなわち、女子では、本人が大学進学目標を内面化している場合には、帰属学校の大学合格者率が高い場合に、怠学行動と犯罪行動が促進されやすいことが示唆される（帰属学校の大学合格者率が低いケースと比較した場合の傾向。ただし、Prob 値は、この両者間でみて、怠学行動0.011、犯罪行動0.261である）。

これは、本研究のサンプルとなった女子においては、大学合格者率の高い高校が偏差値の比較的高い男女共学校に限られたため、帰属学校の男女合せた大学合格者率の高さが女子のそれをも同時に示しているとは限らないことに起因しているとも考えられる。しかし、他方で、男女合せた大学合格者率の高さが、より偏差値の高い大学への進学を男子についてと同様に女子にも当然視するような外的圧力をいっそう高めることによって、現代日本社会の女子に比較的不利⁹⁾な諸条件との間に社会構造的な緊張を産み出すからだとも推察される。今後の研究に待ちたい。

以上にみたように、大学進学目標に限っていえば、種々の逸脱行動は、文化的目標の内面化を当為化ないしは義務化するような外的圧力の下で、その内面化が欠如していたり、十分でない場合や、文化的目標の内面化が十分でありながら、目標達成の現実的可能性が欠如していたり、十分でない——マートンにならっていえば、⁶⁾ 文化的目標と制度的手段とが矛盾している——場合に促進されやすい。しかし、すでにみたように、大学進学目標の内面化は現在および将来の自己についてのイメージとも関連しており、またこれらの自己イメージは逸脱行動の経験の有無とも関連しているのであるから、参考までに、大学進学目標の内面化の有無と現在および将来の自己についての本人自身のイメージとの関連を、さらに、大学進学目標の内面化に向けての外的圧力あるいは帰属学校の大学合格者率と関連させてみると、表37～表40のとおりである。おおまかな傾向としていえば、大学進学への親の期待がありながら、つまり大学進学目標の内面化に向けての外的圧力の下におかれながら、本人においてその内面化が欠如ないし十分でない場合に、現在および将来の自己について肯定的イメージをもつことが少なくなり（表37・表38。ただし、友人の評価と幸福な生活の可能性を除く）、また、大学進学目標の内面化が十分な場合でも、帰属学校の大学合格者率が低い場合には、将来の自己実現や出世の可能性について肯定的イメージをもつことが少なくなるという（表40）点が、示唆される。⁷⁾

しかし、表39をみると、帰属学校の大学合格者率の高低が現在の自己についてのイメージに影響を及ぼしているとはいえない。また、帰属学校の大学合格者率を一定にした場合でも

表36 帰属学校の大学合格者率別—本人の大学進学希望の有無
別にみた逸脱行動の経験の有無（一般少年 高校生）

逸脱行動の経験の有無		〈 帰 属 学 校 の 大 学 合 格 者 率 〉			
		高 い		低 い	
		〈本人の大学進学希望〉		〈本人の大学進学希望〉	
		あ り	な し	あ り	な し
男	怠学行動 経験あり	68人 37.6%	2人 66.7%	21人 47.7%	20人 57.1%
	なし	113 62.4	1 33.3	23 52.3	15 42.9
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-)		0.108	(0.405)
	不良行動 経験あり	72 39.8	1 33.3	27 61.4	25 71.4
	なし	109 60.2	2 66.7	17 38.6	10 28.6
子	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-)		0.001	(0.349)
	犯罪行動 経験あり	37 20.4	0 0.0	16 36.4	17 48.6
	なし	144 79.6	3 100.0	28 63.6	18 51.4
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-)		0.002	(0.274)
	怠学行動 経験あり	14 43.8	0 0.0	33 22.0	60 34.3
女	なし	18 56.3	0 0.0	117 78.0	115 65.7
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-)		-	(0.015)
	不良行動 経験あり	8 25.0	0 0.0	41 27.3	39 22.3
	なし	24 75.0	0 0.0	109 72.7	136 77.7
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-)		-	(0.292)
子	犯罪行動 経験あり	4 12.5	0 0.0	10 6.7	23 13.1
	なし	28 87.5	0 0.0	140 93.3	152 86.9
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-)		-	(0.054)

1. 逸脱行動の経験の有無については、表7を参照。
2. 帰属学校の大学合格者率は、四年制大学への合格者男女の延数（現役＋浪人）÷卒業生総数×100で計算し（1992年3月末現在），150%以上のケースを「高い」，50%以下（実際には20%以下）のケースを「低い」とした。この中間のケースは除外した。
3. χ^2 検定については、表35を参照。

表37 親による大学進学への期待の有無別—本人の大学進学希望の有無別にみた
現在の自己についての本人自身のイメージ（一般少年 高校生）

自 己 イ メ ー ジ		＜ 親 に よ る 大 学 進 学 の 期 待 ＞			
		あ り		な し	
		＜本人の大学進学希望＞		＜本人の大学進学希望＞	
		あ り	な し	あ り	な し
男	よい生徒だとみられている	121 人 56.5 %	9 人 42.9 %	4 人 66.7 %	4 人 66.7 %
	よい生徒だとはみられていない	93 43.5	12 57.1	2 33.3	2 33.3
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.229)		0.562 (-)	
男	よい子だとみられている	140 65.1	8 38.1	1 16.7	3 50.0
	よい子だとはみられていない	75 34.9	13 61.9	5 83.3	3 50.0
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.015)		0.010 (-)	
子	よい友達だとみられている	154 72.6	16 76.2	3 50.0	3 50.0
	よい友達だとはみられていない	58 27.4	5 23.8	3 50.0	3 50.0
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.727)		0.378 (-)	
子	問題のない生徒だと思う	158 73.5	10 47.6	5 83.3	3 50.0
	問題のある生徒だと思う	57 26.5	11 52.4	1 16.7	3 50.0
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.012)		0.047 (-)	
女	よい生徒だとみられている	104 75.4	6 35.3	13 68.4	76 68.5
	よい生徒だとはみられていない	34 24.6	11 64.7	6 31.6	35 31.5
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.001)		0.008 (0.997)	
女	よい子だとみられている	103 75.2	8 44.4	15 79.0	76 68.5
	よい子だとはみられていない	34 24.8	10 55.6	4 21.1	35 31.5
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.007)		0.041 (0.357)	
子	よい友達だとみられている	105 77.8	13 76.5	13 68.4	89 80.2
	よい友達だとはみられていない	30 22.2	4 23.5	6 31.6	22 19.8
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.903)		0.717 (0.249)	
子	問題のない生徒だと思う	117 84.8	13 72.2	17 89.5	96 85.0
	問題のある生徒だと思う	21 15.2	5 27.8	2 10.5	17 15.0
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.179)		0.487 (0.604)	

※ 表35の注2, 3を参照。

表38 親による大学進学への期待の有無別－本人の大学進学希望の有無別にみた
将来の自己についての本人自身のイメージ（一般少年 高校生）

自 己 イ メ ー ジ		＜ 親 に よ る 大 学 進 学 の 期 待 ＞			
		あ り		な し	
		＜本人の大学進学希望＞		＜本人の大学進学希望＞	
		あ り	な し	あ り	な し
男	幸福な生活を送ることができる	162 人 75.7 %	15 人 71.4 %	2 人 33.3 %	5 人 83.3 %
	幸福な生活は送れない	52 24.3	6 28.6	4 66.7	1 16.7
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.665)		0.118 (-)	
男	才能や能力をいかせる	157 73.0	15 71.4	3 50.0	4 66.7
	才能や能力をいかせない	58 27.0	6 28.6	3 50.0	2 33.3
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.875)		0.650 (-)	
子	ある程度のお世はできる	164 76.3	9 42.9	5 83.3	2 33.3
	お世のみこみはほとんどない	51 23.7	12 57.1	1 16.7	4 66.7
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.001)		0.001 (-)	
子	社会に必要な人間になる	134 62.3	9 42.9	4 66.7	3 50.0
	社会に必要な人間にはならない	81 37.7	12 57.1	2 33.3	3 50.0
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.081)		0.333 (-)	
女	幸福な生活を送ることができる	117 86.0	14 77.8	14 76.7	79 69.9
	幸福な生活は送れない	19 14.0	4 22.2	5 26.3	34 30.1
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.356)		0.021 (0.739)	
女	才能や能力をいかせる	99 71.7	9 50.0	13 68.4	61 54.0
	才能や能力をいかせない	39 28.3	9 50.0	6 31.6	52 46.0
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.060)		0.018 (0.241)	
子	ある程度のお世はできる	90 65.2	7 38.9	16 84.2	52 46.4
	お世のみこみはほとんどない	48 34.8	11 61.1	3 15.8	60 53.6
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.030)		0.001 (0.002)	
子	社会に必要な人間になる	90 65.7	8 44.4	12 63.2	56 49.6
	社会に必要な人間にはならない	47 34.3	10 55.6	7 36.8	57 50.4
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(0.079)		0.042 (0.272)	

※ 表35の注 2, 3 を参照。

表39 帰属学校の大学合格者率別－本人の大学進学希望の有無別にみた
現在の自己についての本人自身のイメージ（一般少年 高校生）

自己イメージ		＜ 帰 属 学 校 の 大 学 合 格 者 率 ＞			
		高 い		低 い	
		＜本人の大学進学希望＞		＜本人の大学進学希望＞	
		あ り	な し	あ り	な し
男	よい生徒だとみられている	105 人 58.7 %	1 人 33.3 %	24 人 55.8 %	16 人 45.7 %
	よい生徒だとはみられていない	74 41.3	2 66.7	19 44.2	19 54.3
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-) 0.450		(0.375)	
	よい子だとみられている	116 64.4	2 66.7	26 59.1	14 40.0
	よい子だとはみられていない	64 35.6	1 33.3	18 40.9	21 60.0
子	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-) 0.060		(0.092)	
	よい友達だとみられている	125 70.6	1 33.3	29 65.9	26 74.3
	よい友達だとはみられていない	52 29.4	2 66.7	15 34.1	9 25.7
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-) 0.457		(0.421)	
	問題のない生徒だと思う	126 70.0	1 33.3	30 68.2	19 54.3
女	問題のある生徒だと思う	54 30.0	2 66.7	14 31.8	16 45.7
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-) 0.182		(0.206)	
	よい生徒だとみられている	24 75.0	0 0.0	106 70.7	113 65.7
	よい生徒だとはみられていない	8 25.0	0 0.0	44 29.3	59 34.3
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-) -		(0.340)	
子	よい子だとみられている	25 78.1	0 0.0	108 72.5	111 64.2
	よい子だとはみられていない	7 21.9	0 0.0	41 27.5	62 35.8
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-) -		(0.110)	
	よい友達だとみられている	22 73.3	0 0.0	110 74.3	131 76.2
	よい友達だとはみられていない	8 26.7	0 0.0	38 25.7	41 23.8
子	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-) -		(0.704)	
	問題のない生徒だと思う	25 78.1	0 0.0	127 84.7	145 82.9
	問題のある生徒だと思う	7 21.9	0 0.0	23 15.3	30 17.1
		(-) -		(0.660)	

※ 表35の注3および表36の注2を参照。

表40 帰属学校の大学合格者率別－本人の大学進学希望の有無別にみた
将来の自己についての本人自身のイメージ（一般少年 高校生）

自己イメージ		〈 帰 属 学 校 の 大 学 合 格 者 率 〉			
		高 い		低 い	
		〈本人の大学進学希望〉		〈本人の大学進学希望〉	
		あ り	な し	あ り	な し
男	幸福な生活を送ることができる	138 人 77.1 %	2 人 66.7 %	30 人 68.2 %	22 人 62.9 %
	幸福な生活は送れない	41 22.9	1 33.3	14 31.8	13 37.1
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-)		0.268 (0.620)	
	才能や能力をいかせる	139 77.2	1 33.3	21 47.7	25 71.4
	才能や能力をいかせない	41 22.8	2 66.7	23 52.3	10 28.6
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-)		0.001 (0.034)	
	ある程度のお世はできる	138 76.7	0 0.0	30 68.2	16 45.7
	お世のみこみはほとんどない	42 23.3	3 100.0	14 31.8	19 54.3
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-)		0.000 (0.044)	
	社会に必要な人間になる	114 63.3	1 33.3	24 54.6	16 45.7
女	社会に必要な人間にはならない	66 36.7	2 66.7	20 45.5	19 54.3
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-)		0.162 (0.435)	
	幸福な生活を送ることができる	27 84.4	0 0.0	117 79.1	125 71.4
	幸福な生活は送れない	5 15.6	0 0.0	31 21.0	50 28.6
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-)		- (0.115)	
	才能や能力をいかせる	26 81.3	0 0.0	101 67.3	96 54.9
	才能や能力をいかせない	6 18.8	0 0.0	49 32.7	79 45.1
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-)		- (0.022)	
	ある程度のお世はできる	26 81.3	0 0.0	92 61.3	79 45.4
	お世のみこみはほとんどない	6 18.8	0 0.0	58 38.7	95 54.6
子	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-)		- (0.004)	
	社会に必要な人間になる	20 62.5	0 0.0	97 65.1	84 48.0
子	社会に必要な人間にはならない	12 37.5	0 0.0	52 34.9	91 52.0
	χ^2 検 定 (Prob 値)	(-)		- (0.002)	

※ 表35の注3 および表36の注2を参照。

(その結果、サンプル数の関係から合格者率の低い学校のみが考察の対象となったが)、本人の大学進学目標の内面化と現在の自己イメージとの関連性を認めることはできない。これらの点からすれば、帰属学校の大学合格者率の高低がおおよそ逸脱行動の経験の有無への影響は、自己イメージから独立したものだといえる。いずれにせよ、大学進学目標の内面化と逸脱行動の経験の有無との間に自己イメージが媒介しているかどうか、媒介しているとしたらそれはどんなイメージか等々については、別の機会に改めて論じることしたい。

以上のようにみえてくると、大学進学目標の内面化が逸脱抑止機能を有しているといっても、それは、ハーシー (Hirschi, T.) のボンド (Bond) 理論⁹⁾を超えて、学歴アノミーの観点から複眼的に説明されなければならないことがわかる。学歴アノミーとは、より高くより良い学歴の達成がけっしてすべての児童・生徒にとって可能とはならないにもかかわらず、すべての児童・生徒にたいし、最大の努力をもって追求すべき目標として、文化的に——とくに社会の集合意識や常識によって——価値づけられ、強調されているような、学校社会を中心に形成された社会状況を意味している。

本稿では、より高くより良い学歴の達成は大学進学目標として一律に措定されているが、学歴が現代日本社会において文化的に高く価値づけられているということは、すでに、筆者自身の先行研究において実証済みである。⁹⁾ また、今回の研究でも、ほとんどの中・高生が、学校卒業後の自分の進路に関して、親は大学までの進学を望んでいると認知しているという事実から、間接的に実証される(親が四年制大学への進学を希望していると明確に認知している者の割合は、一般中学生で56.3%、一般高校生で57.8%、非行少年の中・高生で23.6%である)。

他方、大学進学目標の達成がすべての中・高生にとって容易に実現可能ではないということも周知の現実である。今回の調査でも、調査を実施した6校の中で、大学合格者率が150%以上の高校が3校ある一方で、20%にも満たない高校も2校存在しているという事実がみられている。また、文部省の資料(『平成3年度 学校基本調査報告書』)から四年制大学への入学志願者数と入学者数とを比較してみると、入学志願者の42.8%が受入れ側の大学の収容能力との関係で入学不可能な状況におかれていることがわかる。¹⁰⁾

このような学歴アノミーの状況下で、大学進学目標(文化的に価値づけられた目標価値)の内面化と逸脱行動との関連は、多様である。すなわち、一面では、大学進学目標の内面化が、ボンド理論の想定するように、逸脱抑止的に機能し、その非内面化ないし不十分な内面化が逸脱促進的に機能しているという事実が認められるが、他面では、同じく大学進学目標を内面化していても、制度的手段が十分に目標達成能力を有していない場合は(すなわち、帰属学校での勉強では大学合格の可能性がきわめて乏しい場合は)、大学進学目標の内面化は十分に逸脱抑止的に機能しえていないという事実も、認められる。また、大学進学目標の

内面化に向けて外的な圧力が直接にくわえられている状況下では、大学進学目標の非内面化ないし不十分な内面化がもつ逸脱促進的機能は、いっそう大きくなっているという事実も認められる。

注

- 1) 米川茂信「薬物犯罪へのアノミー論からのアプローチ」『淑徳大学研究紀要』第25号, 1991。同「文化的目標の非行抑止機能——退行型非行に焦点をあてて——」『犯罪と非行』No.91, 1992。
- 2) Merton, R.K., *Social Theory and Social Structure*, Free Press, enlarged ed., 1968, p.200 (森東吾ほか訳『社会理論と社会構造』みすず書房, 1961, p.136)。
- 3) 米川茂信『社会的アノミーの研究』学文社, 1987, pp.146-236。

この先行研究では、大学進学目標は、一方で文化的目標として位置づけられながらも、他方で地位的成功目標や金銭的成功目標と同次元の成功目標としては位置づけられていない。しかし、このことは、中・高生世代にとって、文化的目標としての大学進学目標が、成功目標から切り離された、これとは無縁な存在であることを意味してはいない。反対に、中・高生世代にとっては、大学進学目標こそが成功目標の実体をなしているといつてよい。このことは、中・高生向けの学習・受験雑誌や塾や予備校の案内書等で、しばしば、大学合格やこれに直結する高校への合格が、「成功」という観念ないし文言をとおして賞賛されていたり、有名な一流と評される大学や高校の卒業生を対象にした『〇〇大学出身者人名録』とか『〇〇高校卒業生名簿』などが作成されたり、市販されているという事実からも明らかである。

同時に、本稿においてもすぐ後で明らかになるように、中・高生世代の大半が大学進学目標を内面化しているという事実も、大学進学目標をして中・高生世代の成功目標の実体たらしめているといつてよい。言い換えれば、中・高生世代の大半において大学進学目標が内面化されているという事実のうちに、大学進学目標が成功目標の実体として高く文化的に価値づけられているという事実が、反映されているといえるのである。ここで、大学進学目標が文化的に価値づけられているということは、人びとの常識や中・高生世代の集合意識のうちに大学進学が当為なこととして定着化していることを意味している。

したがって、問題は、このような大学進学目標の文化的価値づけが何によってもたらされているか、という点の解明である。その理由は、種々に考えられるであろう。例えば、矢野真和がいう「高校に進学してしまえば大学まで走らないと経済的にも意味がない」という「大学本位制の経済構造」(矢野真和『試験の時代の終焉——選抜社会から育成社会へ——』, 有信堂, 1991, pp.33-38)によって説明されるかもしれない。あるいは、また、ピエール・ブルデューのいう「身分振り分け効果」をもつ「学歴資本」(ピエール・ブルデュー著・石井洋二郎訳『ディスタンクシオンⅠ』, 藤原書店, 1992, pp.37-46)の考えから説明されるかもしれない。あるいは、さらに、もっと別の要因から説明されるかもしれないし、大学への進学それ自体が自己目的化しているのかもしれない。しかし、いずれにしても、この点についての実証的研究は別の機会を待つ以外になく、本稿では、大学進学目標が中・高生世代の成功目標として文化的に高く価値づけられているという事実を前提に、論を進めていく。

- 4) サンプル数の学校種別内訳は、つぎのとおりである。中学生：公立共学校361, 私立男子校139, 私立女子校136。高校生：公立共学校384(普通科298, 職業科86), 私立男子校135, 私立女子校169。
- 5) 文部省『平成3年度 学校基本調査報告書』によると、平成3年3月の高校卒業生の全体を100とし

た同年の四年制大学への進学者の割合は、現役のみで計算して男22.7%，女14.0%となり，さらに，浪人を含めて計算してみると，男40.3%，女17.7%となる。

6) Merton,R.K., *op.cit.*

7) 帰属学校の大学合格者率が高いケースと比較した場合の Prob 値は，つぎのとおりである。「才能や能力をいかせる」：男0.000，女0.120，「ある程度の出世はできる」：男0.244，女0.032。

8) Hirschi,T., *Causes of Delinquency*, Univ. of California Press, 1969.

9) 米川，前掲書， pp.99－113. そこでは，また，7割以上の中・高生が，「今の社会は，学歴が，何かの目標を達成するための手段としてだけでなく，学歴そのものとしても価値あるものだとされている社会だ」とみている事実も明らかにされている（pp.146－148）。

10) 米川茂信・矢島正見編著『成熟社会の病理学』学文社，1993， p.55。

The Differential Functions of Cultural Goals : A Study Concerning the Anomie of School Career

Shigenobu YONEKAWA

This study attempts to explore the followings : (1) the differential functions of cultural goals : in which cultural goals juveniles are prompted to deviant behavior by internalizing into them or they are deterred from it in the absence of internalizing into them ; or on the contrary, in which cultural goals juveniles are deterred from it by internalizing into them or they are prompted to it without internalizing into them ; (2) the pressure of social condition of anomie that influences the insufficient internalization of cultural goals.

For making the research of the above questionnaire surveys of junior high and senior high school students and people of the same generation were conducted from February to March 1992 in Tokyo Metropolitan, Chiba prefecture and Saitama. The samples are 636 ordinary junior high school pupils (324 boys and 312 girls), 688 ordinary senior high school students (301 boys and 387 girls) and 828 juvenile delinquents (615 boys and 208 girls ; 294 junior high school pupils, 276 senior high school students, 116 employed juveniles and 105 unemployed juveniles).

The main findings are as follows :

1. Cultural goals function to deviant behavior differently depending on the entities. In many cases, the internalization of monetary success goal functions to deviant behavior promptly, that of the goal of entering colleges deterringly and that of status success goal both promptly and deterringly.

2. The relations of cultural goals and self images are variable depending on the entities of the former. The internalization of the goal of entering colleges relates to the positive images about present and future self. But the internalization of status success goal relates to the positive images about only future self. Monetary success goal relates to no positive image. While the function of deterring deviant behavior in the goal of entering colleges is strengthened still more owing to combining with the positive images about present and future self, the function of prompting deviant behavior in the status success goal is only neutralized owing to combining with the positive images about future self.

3. The internalization of cultural goals relates differently to the institutionalized study

life that is studying behavior and ability to study. In many cases, the internalization of the goal of entering colleges results in the behavior of studying hard and the ability to study well (= abidance by the institutionalized means and the increase of its effect). On the other hand, status success goal and monetary success goal bring the same result as the above, but at the same time they tend to result in the neglect or denial of studying behavior and the inability to study well (= the neglect or denial of institutionalized means and the reduction of its effect). While the internalization of the goal of entering colleges functions to deviant behavior deterringly owing to combining with the behavior of studying hard and the ability to study well, status success goal and monetary success goal do promptly owing to combining with the neglect or denial of studying behavior and the inability to study well.

4. There are conditions of the anomie of school career in the generations of junior high school and senior high school students as follows :

1) The deviant behavior tends to be prompted when the parents expect their children to enter colleges though they do not internalize such goal.

2) As far as boys concerned, if the goal of entering colleges is internalized, the deviant behavior tends to be prompted when the ratio of the students who pass the entrance examination of college is lower in their school that is, when the effect of the institutionalized means is not so expected. But, concerning girls, the opposite tendency is suggested.